

2026年3月期決算説明資料

限りある資源を活かし、世界を笑顔と感動で満たす！
未来価値創造に挑み続ける企業グループへ

2026年5月11日



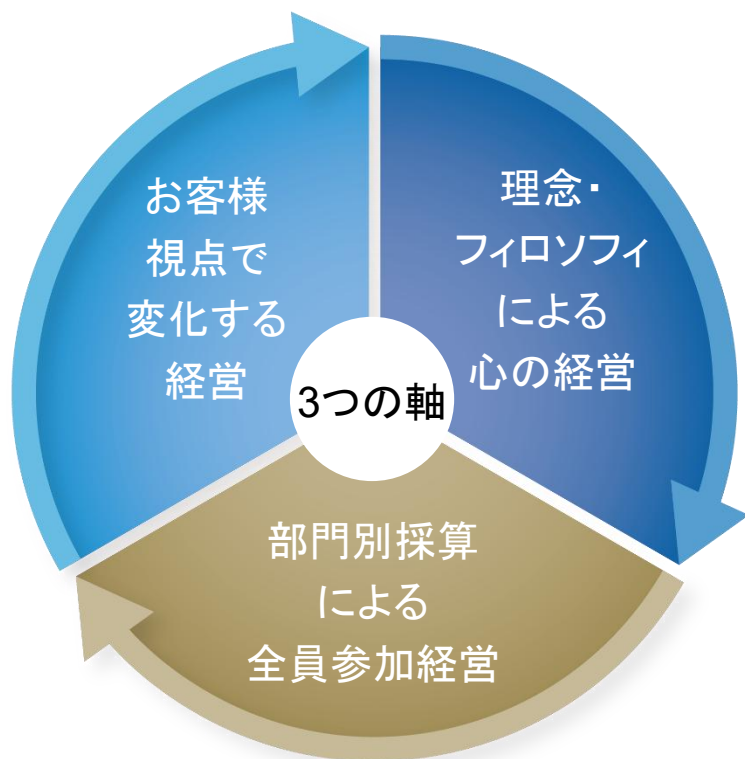
SUN FRONTIER

1.	サンフロンティアグループについて	P. 2
2.	業績ハイライト	P. 3
3.	成長戦略	P. 22
4.	事業の取り組み	P. 29
5.	資本コストや株価を意識した経営	P. 40
6.	経営理念・ビジネスモデル	P. 46
7.	参考資料	P. 54

サンフロンティアグループについて

「利他」の価値観のもと、人財を育成し、事業の成長を通して、
社会課題の解決へ取り組み、持続可能な社会の実現に貢献してまいります

理念・フィロソフィ、部門別採算、お客様視点という3つの軸で
経営を実践し、長期的な企業価値の創造へ



サンフロンティア・フィロソフィ

社是 Credo

利他

一生をかけて、どれだけ多くの人に役立たせていただくことができるか

経営理念 Mission

全従業員を守り、物心両面の幸福を追求すると同時に、共創の心をもって、
人類社会の進化発展に貢献し、持続可能な社会を実現する

目指す将来像 Vision

限りある資源を活かし、新たな価値創造に挑み続け、
世界一お客様に愛されるビジョナリー・カンパニーを目指す

行動指針 Value

1. 仲間のために働く
2. 正しいことを貫く
3. 絶対的積極
4. すぐやる、必ずやる、
できるまでやる
5. 謙虚にして常に感謝と敬意を
6. 常に創造的な仕事を行なう
7. 現場に徹する
8. 素直に明るく、美しく



業績ハイライト



SUN FRONTIER

業績 サマリー (26/3期)

- ◆売上高が**2期連続で過去最高を更新**
- ◆経常利益は**3期連続**、当期純利益は**4期連続で過去最高を更新**
- ◆各セグメントの業績について
 - 不動産再生事業は**高い利益率を維持し、増収増益**
 - 不動産サービス事業は**全事業の好調な業績により、大幅に増収増益**
 - ホテル・観光事業は**堅調な旅行需要を背景に増収も、物件販売がなく減益**

トピックス

- ◆ホテル事業：3ホテルの新規開業、および2ホテルのM&Aを実施、運営ホテルが34ホテル・3,690室へ
- ◆建設事業：M&Aにより、大竹建窓グループが当社グループ入り、オフィス事業を強化
- ◆当社グループ初の統合報告書を発行
- ◆2026年4月1日より、**伊藤忠商事株式会社と資本業務提携を開始**

業績予想 (27/3期)

- ◆2027年3月期の通期業績予想は、**売上高1,300億円、経常利益260億円。過去最高を更新**
- ◆**中期経営計画における2028年3月期の売上高を1,500億円、経常利益を300億円に上方修正**

業績サマリー

売上、利益ともに増加し、過去最高を更新

(百万円)	25年3月期	26年3月期	前期比		26年3月期	
	実績	実績	増減額	増減率	通期予想	進捗率
売上高	103,174	116,083	+12,908	+12.5%	117,000	99.2%
売上総利益	32,225	38,114	+5,889	+18.3%	36,420	104.7%
販売費及び一般管理費	10,945	12,758	+1,812	+16.6%	12,580	101.4%
営業利益	21,279	25,356	+4,076	+19.2%	23,840	106.4%
経常利益	20,446	23,298	+2,851	+13.9%	22,500	103.5%
経常利益率	19.8%	20.1%	-	+0.3%pt	19.2%	-
当期純利益(※)	14,163	15,986	+1,822	+12.9%	15,500	103.1%

(※)親会社株主に帰属する当期純利益

	25年3月期	26年3月期	前期比		26年3月期
	期末	期末	増減額	増減率	通期予想
総資産	218,190	264,463	+46,273	+21.2%	-
自己資本	102,159	119,740	+17,581	+17.2%	-
自己資本比率	46.8%	45.3%	-	▲1.5%pt	-
ROE	14.7%	14.4%	-	▲0.3%pt	14.2%
EPS(円)	291.58	327.76	36.18	+12.4%	319.11
1株当たり配当(円)	66.00	76.00	10.00	+15.2%	76.00
連結配当性向	22.6%	23.2%	-	+0.6%pt	23.8%

連結損益計算書

オフィス事業が業績を牽引。ホテル運営事業も好調

(百万円)	25年3月期	26年3月期	前期比		26年3月期	
	通期	通期	増減額	増減率	通期予想	進捗率
売上高	103,174	116,083	+12,908	+12.5%	117,000	99.2%
不動産再生事業	71,339	76,434	+5,095	+7.1%	81,340	94.0%
不動産サービス事業	12,488	16,307	+3,819	+30.6%	14,000	116.5%
ホテル・観光事業	18,831	18,949	+117	+0.6%	21,490	88.2%
その他	1,992	5,872	+3,880	+194.8%	2,230	263.3%
調整額	▲ 1,477	▲ 1,481	▲ 3	-	▲ 2,060	-
売上総利益	32,225	38,114	+5,889	+18.3%	36,420	104.7%
不動産再生事業	22,114	24,500	+2,385	+10.8%	25,560	95.9%
不動産サービス事業	6,124	8,719	+2,595	+42.4%	6,940	125.6%
ホテル・観光事業	4,479	4,387	▲ 91	▲ 2.0%	4,340	101.1%
その他	498	1,479	+981	+196.9%	530	279.2%
調整額	▲ 990	▲ 971	+19	-	▲ 950	-
販売費及び一般管理費	10,945	12,758	+1,812	+16.6%	12,580	101.4%
営業利益	21,279	25,356	+4,076	+19.2%	23,840	106.4%
経常利益	20,446	23,298	+2,851	+13.9%	22,500	103.5%
当期純利益	14,163	15,986	+1,822	+12.9%	15,500	103.1%

■不動産再生事業

販売件数は24件(対前年同期▲14件)。規模の大きい物件や高収益物件の販売があり、増収増益

■不動産サービス事業

売買仲介の伸長、貸会議室の高稼働等により、増収増益

■ホテル・観光事業

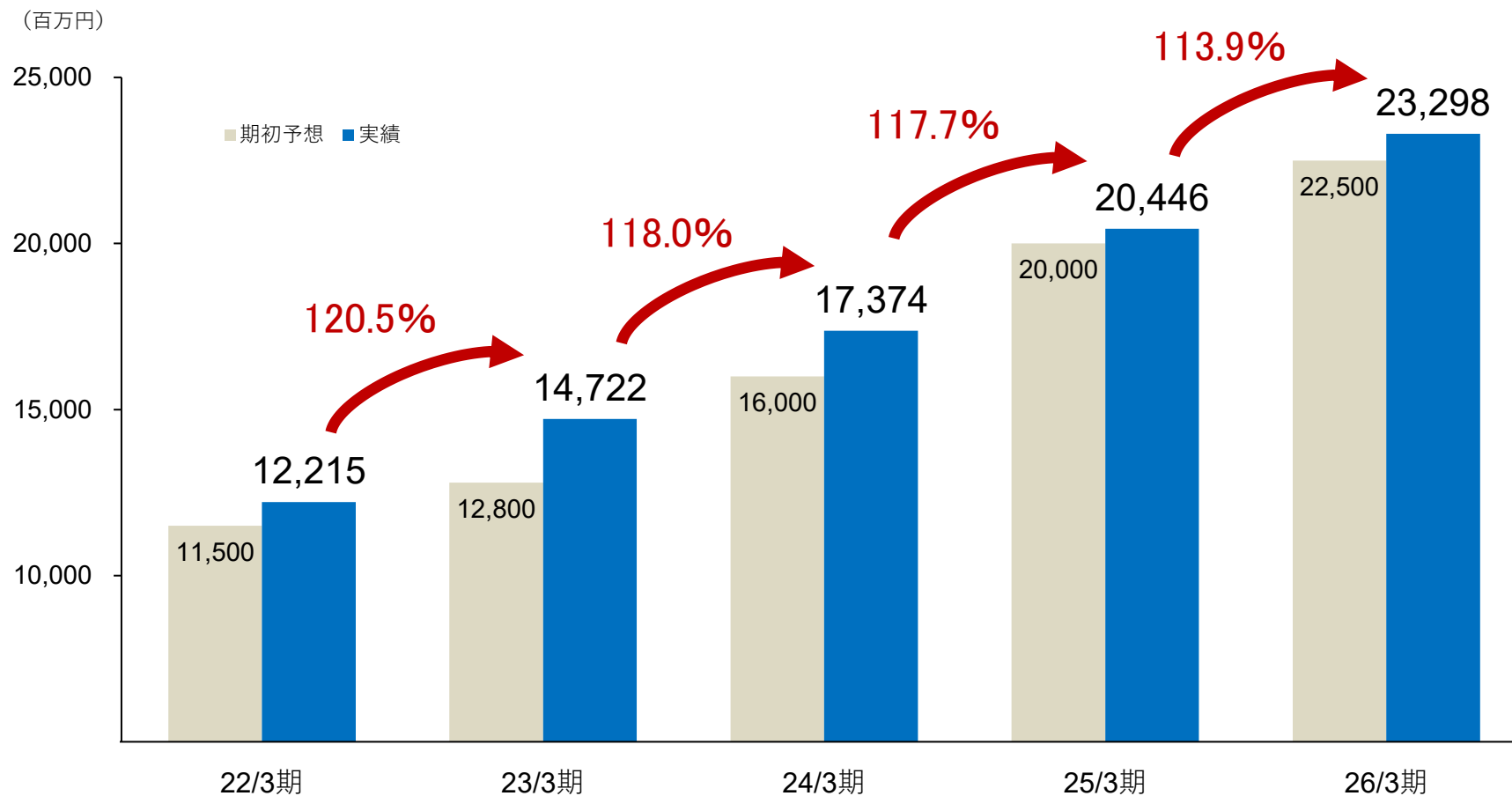
ホテル運営では堅調な旅行需要を背景に好調継続も、ホテル開発での物件販売がなく、増収減益

■その他

10月にM&Aにより取得した大竹建窓グループの業績が加わり、増収増益

経常利益の推移

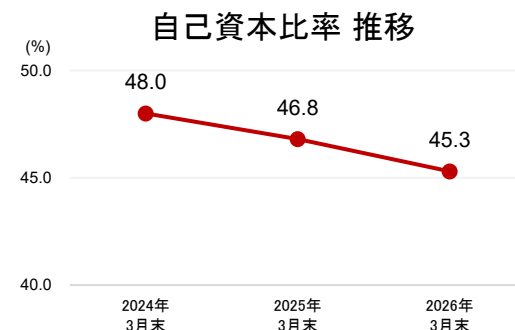
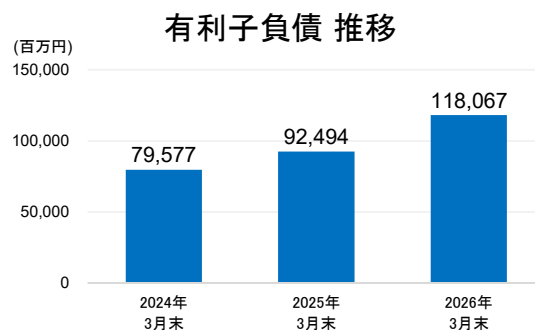
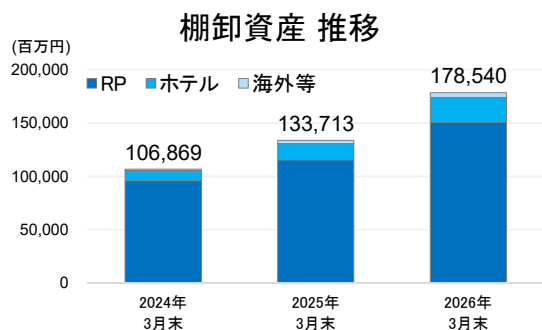
毎期、期初予想を上回るとともに、前期比10%超の成長を継続



連結貸借対照表

リプランニング物件の仕入れと商品化およびホテル開発の工事進捗により、
棚卸資産・有利子負債が増加

(百万円)	25年3月期 期末	26年3月期 期末	増減額	(百万円)	25年3月期 期末	26年3月期 期末	増減額
流動資産	183,706	225,705	+41,998	流動負債	26,663	30,703	+4,039
現金及び預金	44,920	39,274	▲5,645	短期借入金等	10,240	10,373	+132
棚卸資産	133,713	178,540	+44,826	その他流動負債	16,423	20,329	+3,906
内訳) RP事業	115,549	150,895	+35,345	固定負債	85,634	113,375	+27,741
ホテル	15,326	23,126	+7,799	長期借入金	72,219	102,556	+30,337
海外等	2,837	4,518	+1,680	社債	9,999	5,102	▲4,897
その他流動資産	5,072	7,890	+2,817	その他固定負債	3,415	5,716	+2,301
固定資産	34,484	38,758	+4,274	負債合計	112,298	144,078	+31,780
有形固定資産	24,290	26,246	+1,955	株主資本	100,949	118,243	+17,294
無形固定資産	2,288	3,342	+1,054	その他	4,942	2,141	▲2,801
投資その他の資産	7,904	9,170	+1,265	純資産合計	105,892	120,384	+14,492
資産合計	218,190	264,463	+46,273	負債・資本合計	218,190	264,463	+46,273



1. 世界経済は地政学リスクの高まりにより、成長鈍化とインフレ再燃が同時進行し、先行き不透明な状況

◆地政学リスクの高まりを背景に、欧米では慎重な金融政策が続き、政策金利を据え置き

◆IMFは中東情勢による原油高を念頭に、世界経済成長見通しを3.1%に引き下げ、今後の動向に注目

2. 日本経済は、緩やかな回復基調を維持しつつも、物価上昇等による景気減速に要注意

◆高市政権による積極財政への期待が高い一方、財政規律の低下や金利上昇等が懸念される

◆日銀は中東情勢による経済、物価への影響を見極めるため、政策金利を据え置き

3. 都心オフィス市場においては、賃料上昇が継続し、空室率が低水準で推移。堅調な投資意欲も維持

◆中東情勢に伴う原油高により、資材の供給が不透明となった一方、影響は限定的だと見込んでいる

◆金利上昇局面でも、投資家の投資意欲が堅調。一方、物件選別が進み、投資判断は慎重化の様相

4. ホテル・観光市場は、中国の渡航制限の影響を受けつつも、訪日外客数、旅行消費額は堅調に推移

◆2026年1～3月の訪日外客数は、継続的な円安を背景に、昨年に続いて四半期で1,000万人を突破

◆2026年1～3月の旅行消費額は2兆3,378億円。うち、宿泊費が36.7%を占め、前年同期比12%増加

2027年3月期 通期業績予想サマリー

売上高・経常利益は10%超の伸長見込み。通期配当予想は4.0円増配の80.0円

(百万円)	26年3月期	27年3月期	前年比	
	実績	予想	増減額	増減率
売上高	116,083	130,000	+13,916	+12.0%
売上総利益	38,114	42,839	+4,724	+12.4%
販売費及び一般管理費	12,758	14,689	+1,930	+15.1%
営業利益	25,356	28,150	+2,793	+11.0%
経常利益	23,298	26,000	+2,701	+11.6%
経常利益率	20.1%	20.0%	-	▲0.1%pt
当期純利益(※)	15,986	17,400	+1,413	+8.8%

(※)親会社株主に帰属する当期純利益

	26年3月期	27年3月期	前年比	
	期末	通期予想	増減額	増減率
総資産	264,463	-	-	-
自己資本	119,740	-	-	-
自己資本比率	45.3%	-	-	-
ROE	14.4%	13.1%	-	▲1.3%pt
EPS(円)	327.76	304.27	▲23.49	▲7.2%
1株当たり配当(円)	76.00	80.00	+4.00	+5.3%
連結配当性向	23.2%	26.3%	-	+3.1%pt

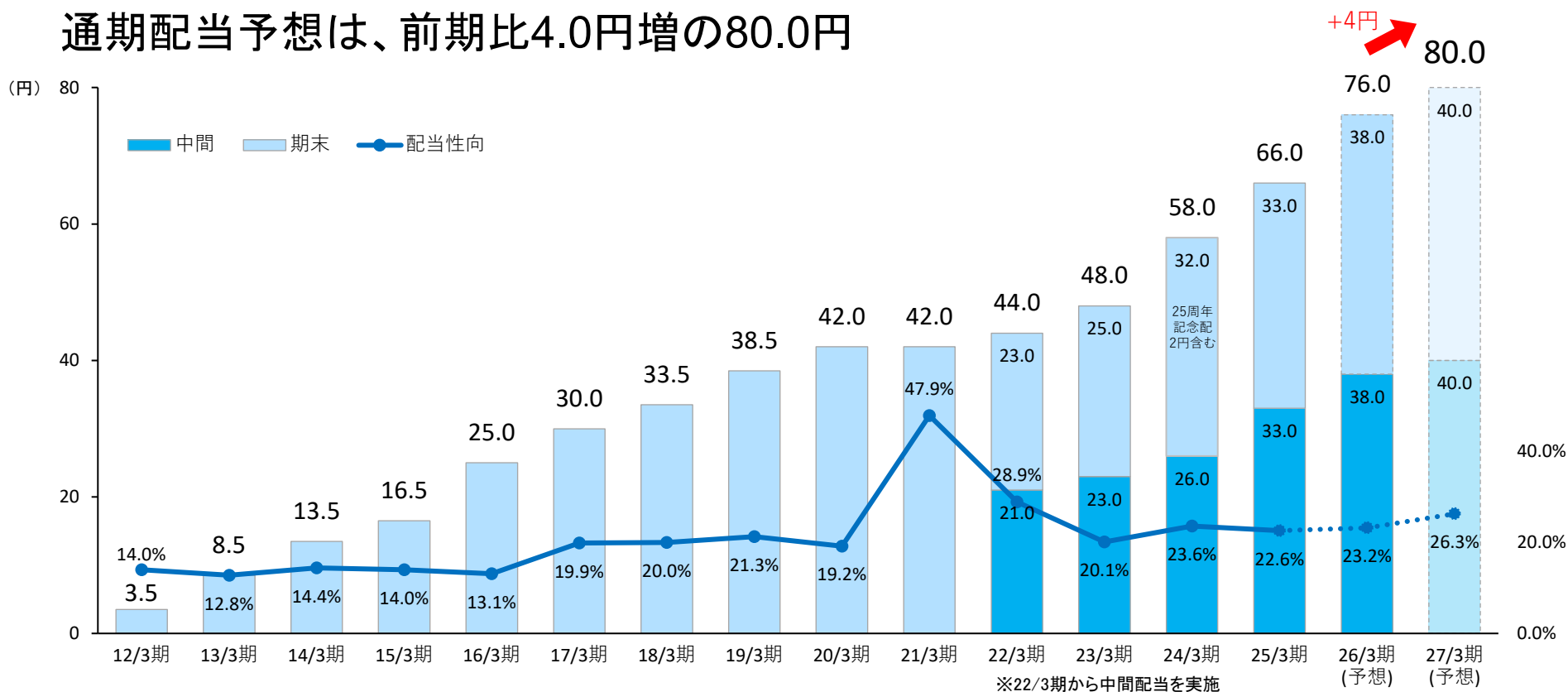
2027年3月期 通期業績予想

(百万円)	26年3月期	27年3月期	前年比	
	実績	予想	増減額	増減率
売上高	116,083	130,000	+13,916	+12.0%
不動産再生事業	76,434	85,300	+8,865	+11.6%
不動産サービス事業	16,307	17,270	+962	+5.9%
ホテル・観光事業	18,949	21,950	+3,000	+15.8%
その他	5,872	7,480	+1,607	+27.4%
調整額	▲ 1,477	▲ 2,000	▲ 522	-
売上総利益	38,114	42,839	+4,724	+12.4%
不動産再生事業	24,500	27,450	+2,949	+12.0%
不動産サービス事業	8,719	9,060	+340	+3.9%
ホテル・観光事業	4,387	5,040	+652	+14.9%
その他	1,479	1,989	+509	+34.4%
調整額	▲ 971	▲ 700	+271	-
販売費及び一般管理費	12,758	14,689	+1,930	+15.1%
営業利益	25,356	28,150	+2,793	+11.0%
経常利益	23,298	26,000	+2,701	+11.6%
当期純利益	15,986	17,400	+1,413	+8.8%

- 不動産再生事業 高い利益率を維持。既存RP物件のほか、新築ビル・NY・小口商品・レジなどの販売も予定
- 不動産サービス事業 貸会議室における新拠点の開設のほか、部門間の連携を強化し、各事業とも堅実な伸長を継続
- ホテル・観光事業 新規で10ホテルの開業を予定。稼働率・平均客室単価の向上を図る。
- その他 M&Aにより取得した各グループ会社が、セグメント業績に寄与
- 販管費 システム投資による生産性の向上と、人的資本への投資による人財育成を推進

配当予想

同額維持となった21/3期を挟んで14年連続の増配を予想
 通期配当予想は、前期比4.0円増の80.0円

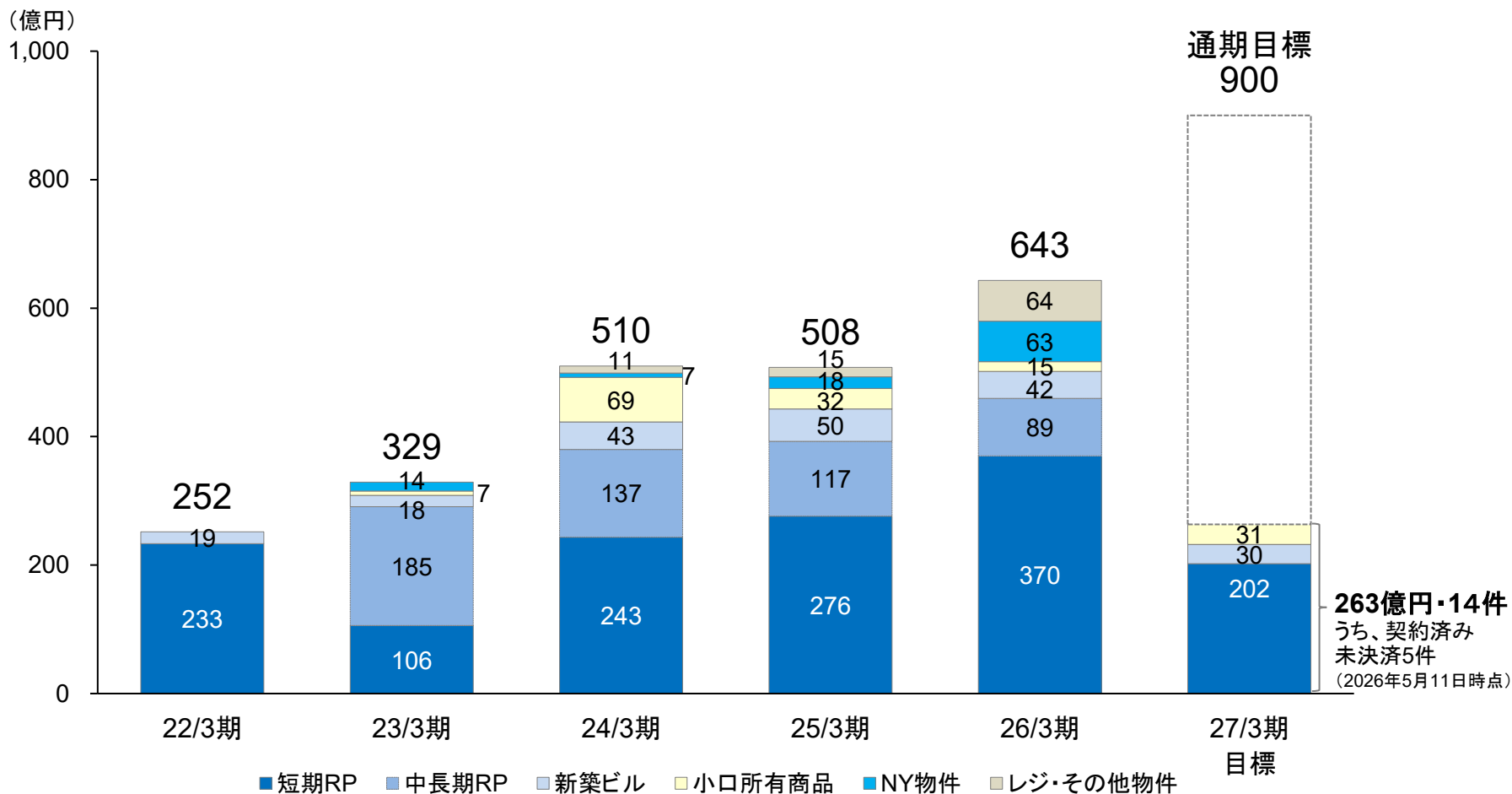


株主還元の基本方針

- ①長期的かつ安定的な利益還元に努める
- ②将来の成長に向けて積極果敢に挑戦する投資資金を確保する
- ③財務基盤の安定性を維持する

仕入れ目標 - オフィス・レジデンシャル -

前期比136億円増の643億円(契約済み未決済を含むと712億円)の仕入れを実現
 今期は、伊藤忠商事との共同投資も推進し、900億円を目指す



高い利益率を維持し、増収増益。新築物件等の販売が業績伸長に寄与

(百万円)	25年3月期	26年3月期	前期比		27年3月期	
	実績	実績	増減額	増減率	通期予想	増減率
売上高	71,339	76,434	+5,095	+7.1%	85,300	+11.6%
リプランニング事業	68,684	72,479	+3,794	+5.5%	81,100	+11.9%
賃貸ビル事業	2,654	3,955	+1,300	+49.0%	4,200	+6.2%
売上総利益	22,114	24,500	+2,385	+10.8%	27,450	+12.0%
リプランニング事業	21,860	23,488	+1,628	+7.4%	26,350	+12.2%
賃貸ビル事業	253	1,011	+757	+298.2%	1,100	+8.8%
セグメント利益(※)	20,104	22,148	+2,043	+10.2%		
リプランニング事業	19,850	21,136	+1,286	+6.5%		
賃貸ビル事業	253	1,011	+757	+298.2%		
セグメント利益率	28.2%	29.0%	-	+0.8%pt		
リプランニング事業	28.9%	29.2%	-	+0.3%pt		
賃貸ビル事業	9.6%	25.6%	-	+16.0%pt		

■リプランニング事業

販売件数は減少も、規模の大きい物件や高収益の新築物件の販売があったこと等により、増収増益

(販売件数) 24件(内、小口所有商品3件・新築ビル3件、NY2件)。前期比▲14件

(平均事業期間) 874日(前期比+91日)。新築物件3件(平均2,095日)を除くと、平均645日

2027年3月期においては、アセットタイプの多様化を図り、既存RP物件に加え、新築ビル・NY・小口商品・レジなどの販売も予定

■賃貸ビル事業

物件仕入れの進捗に加え、前期に比べ賃貸関連費用が減少したこと等により、増収増益

(※) 売上総利益から支払利息・販売手数料、のれん償却等各事業で発生する固有の費用を差し引いて算出(全ページ共通)

各部門とも好調に推移し、大幅に増収増益

(百万円)	25年3月期	26年3月期	前期比		27年3月期	
	実績	実績	増減額	増減率	通期予想	増減率
売上高	12,488	16,307	+3,819	+30.6%	17,270	+5.9%
PM/BM/仲介事業等	8,511	10,916	+2,405	+28.3%	11,250	+3.1%
貸会議室	3,976	5,390	+1,414	+35.6%	6,020	+11.7%
売上総利益	6,124	8,719	+2,595	+42.4%	9,060	+3.9%
PM/BM/仲介事業等	5,536	7,151	+1,614	+29.2%	7,540	+5.4%
貸会議室	587	1,567	+980	+166.9%	1,520	▲3.0%
セグメント利益	6,112	8,703	+2,590	+42.4%		
PM/BM/仲介事業等	5,536	7,151	+1,614	+29.2%		
貸会議室	576	1,552	+976	+169.4%		
セグメント利益率	49.0%	53.4%	-	+4.4%pt		
PM/BM/仲介事業等	65.0%	65.5%	-	+0.5%pt		
貸会議室	14.5%	28.8%	-	+14.3%pt		

■PM/BM/仲介事業等

- (PM) PM受託棟数は前期末比17棟増加したことにより、増収増益
2027年3月期においては、迅速かつ高品質なサービスを提供することにより、受託棟数の目標を600棟に
- (BM) グループ内連携強化によって、管理受託棟数が増加し、増収増益
- (売買仲介) グループ内からの紹介案件の成約に加え、取り扱い案件の大型化が進み、増収増益
- (賃貸仲介) ハイブリッドな働き方や人財獲得といった需要を捉え、増収増益
- (滞納賃料保証) 新規契約および再保証契約件数が順調に伸長したことにより、増収増益

■貸会議室事業

オープン1年未満の拠点が軌道に乗るとともに、リピーターや大型案件の増加により、増収増益
2027年3月期においては、運営面積13,000坪を目標に、事業拡大を図る

好調なインバウンド需要とオペレーション力の強化により、ホテル運営が増収増益

(百万円)	25年3月期	26年3月期	前期比		27年3月期	
	実績	実績	増減額	増減率	通期予想	増減率
売上高	18,831	18,949	+117	+0.6%	21,950	+15.8%
ホテル開発	3,071	0	▲3,071	-	0	-
ホテル運営等	15,760	18,949	+3,189	+20.2%	21,950	+15.8%
売上総利益	4,479	4,387	▲91	▲2.0%	5,040	+14.9%
ホテル開発	991	▲62	▲1,054	-	0	-
ホテル運営等	3,487	4,450	+962	+27.6%	5,040	+13.3%
セグメント利益	4,072	3,817	▲255	▲6.3%		
ホテル開発	779	▲303	▲1,083	-		
ホテル運営等	3,293	4,120	+827	+25.1%		
セグメント利益率	21.6%	20.1%	-	▲1.5%pt		
ホテル開発	25.4%	-	-	-		
ホテル運営等	20.9%	21.7%	-	+0.9%pt		

■ホテル開発事業

(新規開発状況)

現時点の建設中・計画中のホテルは合計16ホテル・2,158室

2027年3月期においては、10ホテルの開業を予定しており、運営ホテルは44ホテル・5,161室に拡大する予定

■ホテル運営事業

(新規開業・取得状況)

新規開業で3ホテル:京都四条(16室)、加古川(172室)、石狩(175室) /

M&Aで2ホテル:長野(136室)、鬼怒川(41室)

(運営状況)

好調なインバウンド需要等に加え、オペレーション力の強化に努め、稼働率・客室単価が上昇し、増収増益

2027年3月期においては、新規開業等の影響により稼働率・客室単価が低下も、増収増益の計画

工事受注件数の増加およびM&Aにより、増収増益

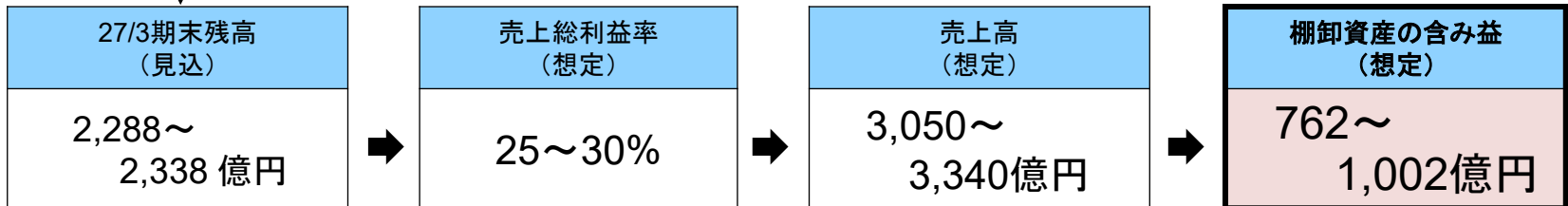
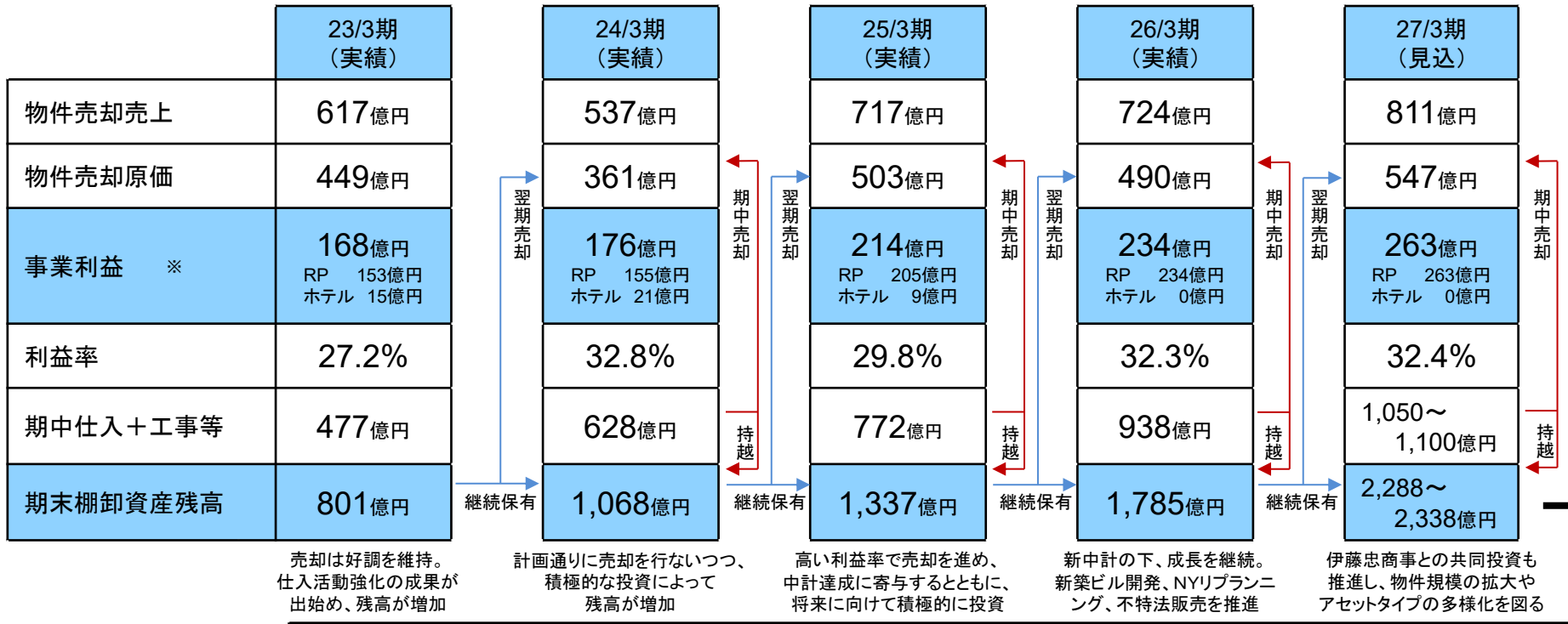
(百万円)	25年3月期	26年3月期	前期比		27年3月期	
	実績	実績	増減額	増減率	通期予想	増減率
売上高	1,992	5,872	+3,880	+194.8%	7,480	+27.4%
売上総利益	498	1,479	+981	+196.9%	1,989	+34.4%
セグメント利益	435	1,177	+741	+170.2%		
セグメント利益率	21.9%	20.0%	-	▲1.8%pt		

■建設事業 オフィス等の内装工事や通信ネットワーク工事等の工事受注の件数が前年同期比増加
10月にM&Aによってグループ入りした大竹建窓グループの業績が加わり、増収増益

■海外開発事業(ベトナム)

2024年8月に着工したベトナム新規分譲マンションプロジェクト(第2号案件 HIYORI Aqua Tower)は、
2026年2月に販売を開始し、2027年度上半期の竣工に向けて、工事が進捗中

多様化するフロー型事業へバランスよく積極的に投資



※ 事業利益 = 売上総利益 - 販売手数料、RPはNYおよび不動産小口化所有商品を含む

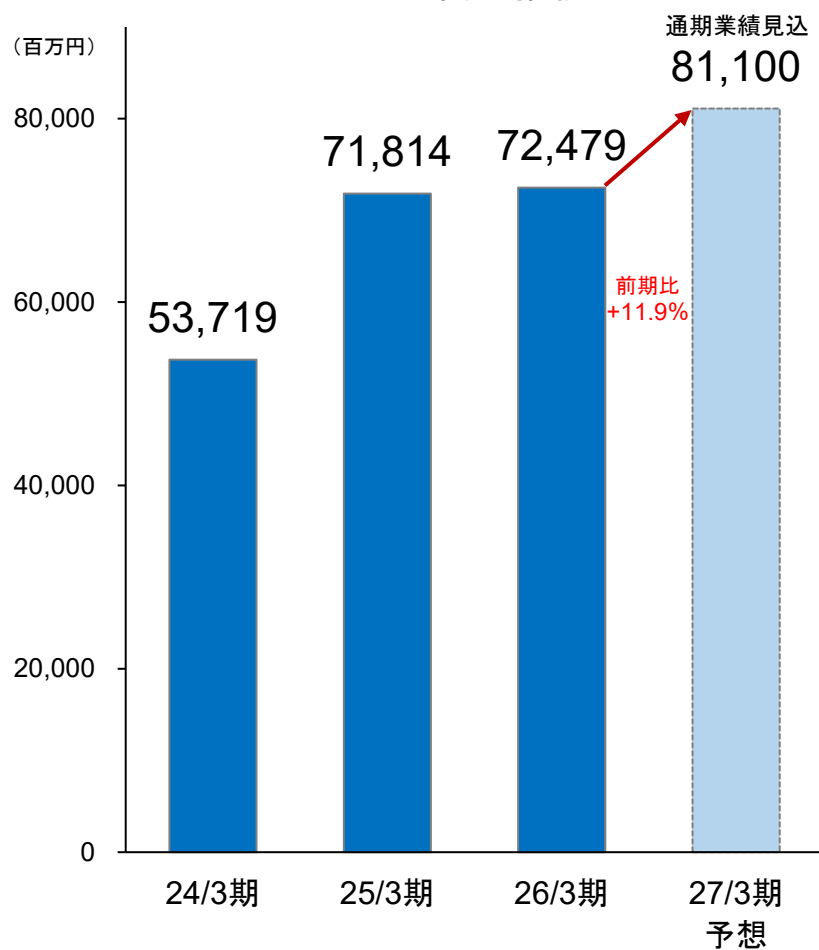
フロー型事業の業績推移

(RP事業、ホテル開発事業、海外開発事業
の販売用不動産売却の合計)

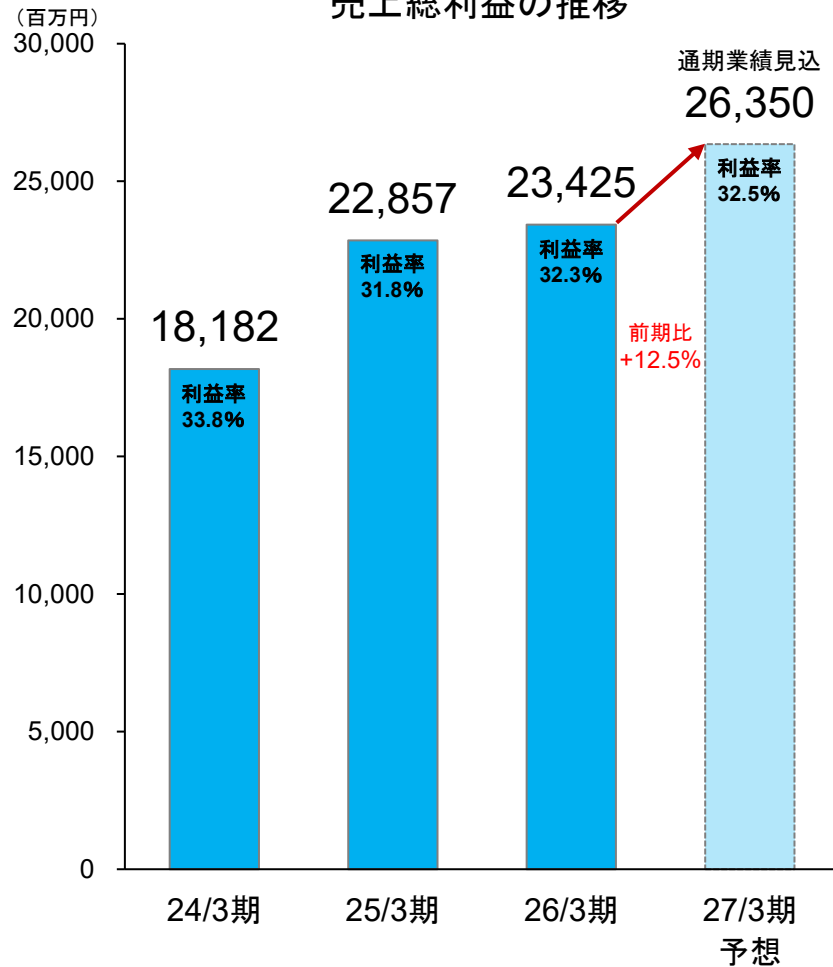


高収益構造を維持し、本業連携多角化による事業成長を加速

売上高の推移



売上総利益の推移



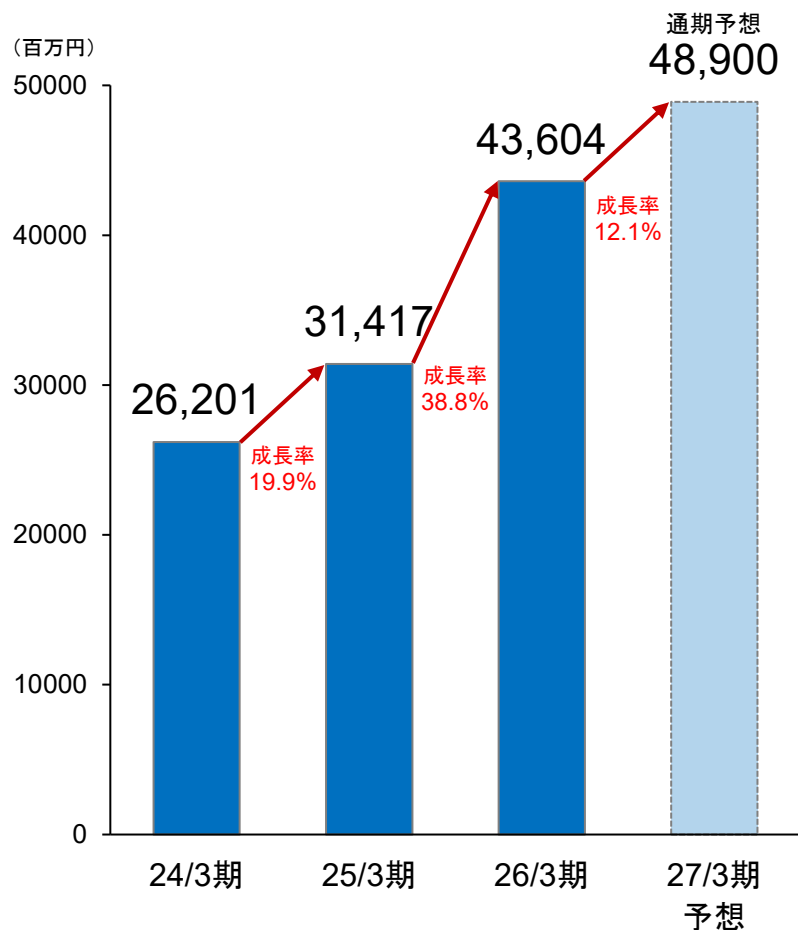
ストック型事業の業績推移

(不動産サービス、ホテル運営事業等、
販売用不動産売却以外の全事業の合計)

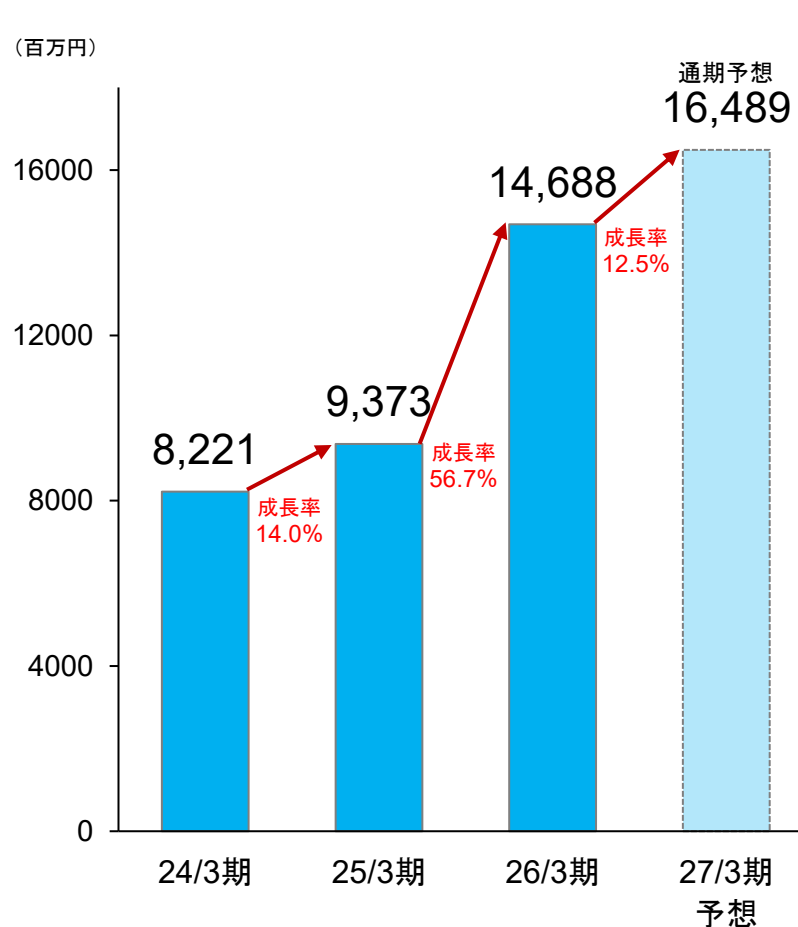


売上、売上総利益ともに、過去最高を更新。高い成長率を維持し、事業を拡大

売上高の推移

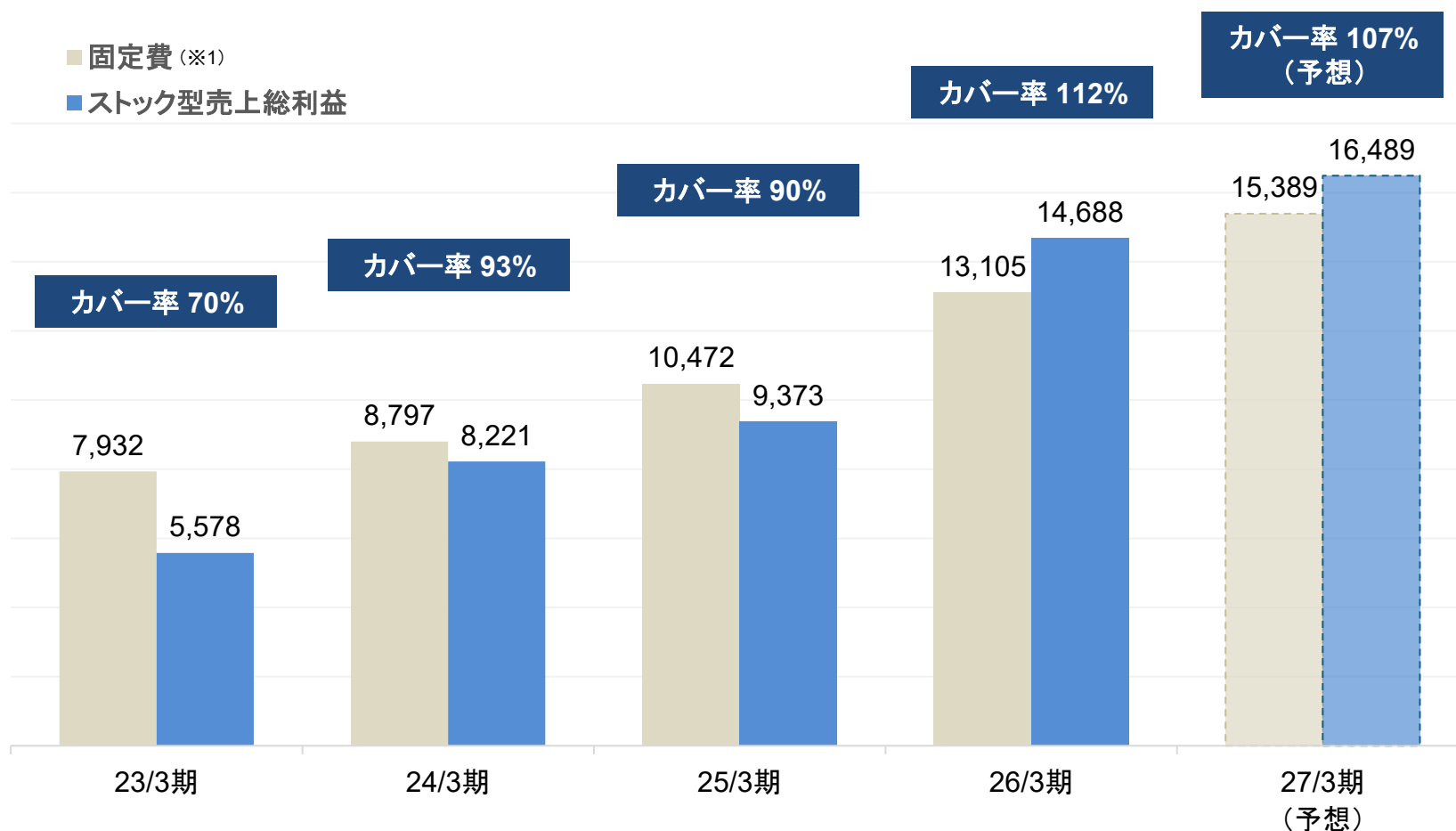


売上総利益の推移



ストック型事業(安定型事業)によるカバー率

ストック型事業の売上総利益により固定費をカバーする構造を実現



(※1) 固定費 = 販売費及び一般管理費 - 販売手数料 + 支払利息

(※2) カバー率 = ストック型売上総利益 ÷ 固定費



成長戦略



SUN FRONTIER

長期ビジョン2035および中期経営計画2028

長期ビジョン2035

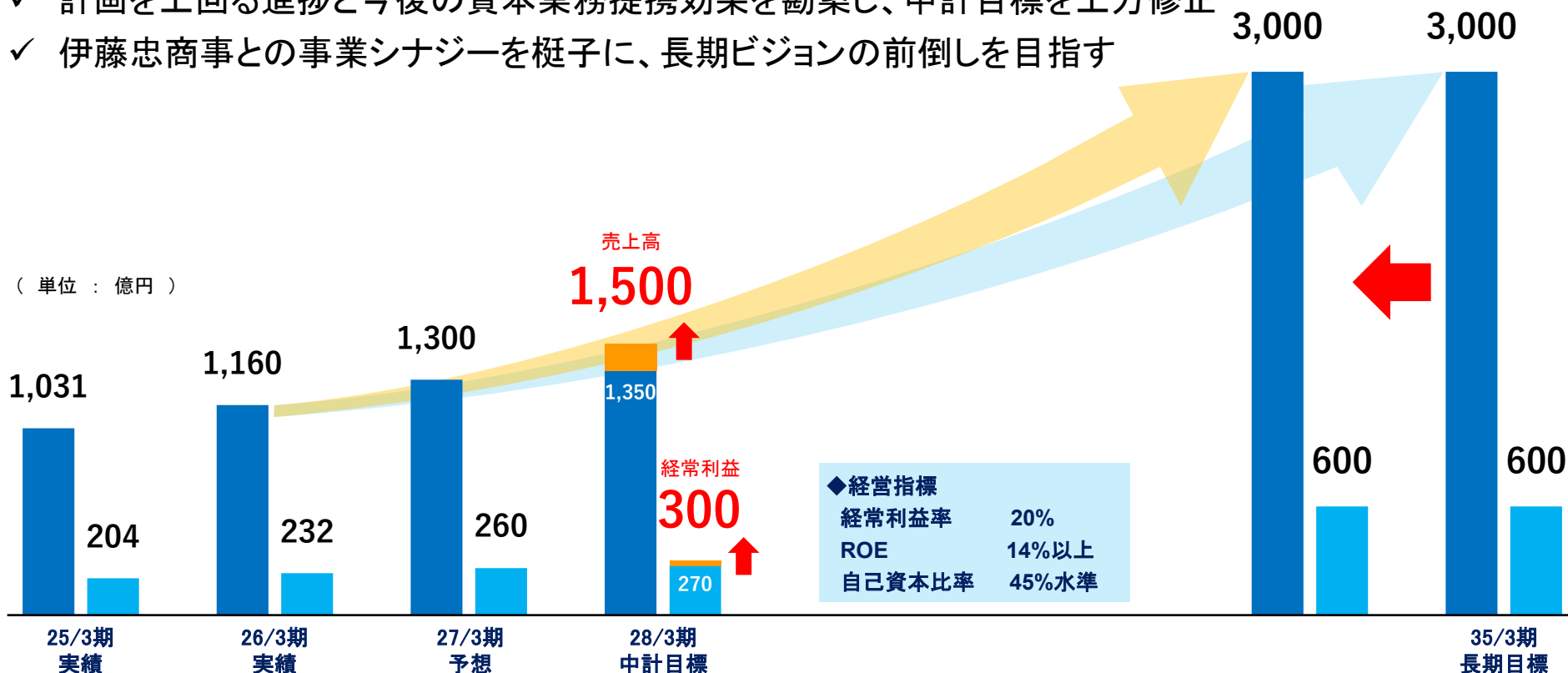
限りある資源を活かし、世界を笑顔と感動で満たす！未来価値創造に挑み続ける企業グループへ

中期経営計画2028

基本方針

お客様視点のものづくりと心温かいサービスで、本業連携多角化を推進し、社会課題の解決に取り組む

- ✓ 計画を上回る進捗と今後の資本業務提携効果を勘案し、中計目標を上方修正
- ✓ 伊藤忠商事との事業シナジーを梃子に、長期ビジョンの前倒しを目指す

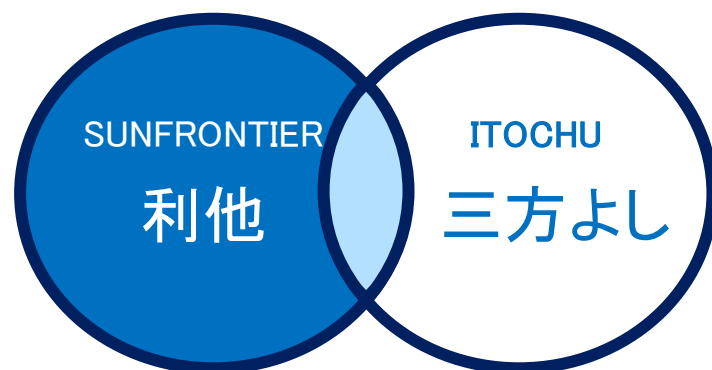


伊藤忠商事との資本業務提携の目的・背景

目的 経営理念の実現に向けて、戦略的な資本業務提携による事業の成長加速と中長期的な企業価値の飛躍的向上を図る

背景

企業風土の親和性



企業理念の親和性が高く、
長期的かつ強固な信頼関係の構築が可能

戦略の相互補完性

SUNFRONTIER

ITOCHU

現場力・機動力
を活かした高付
加価値サービス

×

総合商社とし
ての事業ネット
ワーク・資金力

オフィスビルの
再生やホテル
等の開発・運
営に強み

×

住宅、物流、イ
ンフラ等の開発
やAMに強み

経営理念における共通の価値観のもと、両社の強み、独自性を活かしながら、
既存事業の深掘りと新規分野の拡大を図る長期的戦略パートナー

シナジーを創出する相互補完

サンフロンティア不動産 の強み

セットアップオフィスの
企画力、ものづくり力

都心の中小型オフィスビルの
管理実績

一気通貫に内製化された
不動産サービス

都心の地域密着の
テナントリーシング力

心温かいサービスによる
ホテル運営力

伊藤忠商事の強み

REIT、私募ファンド等による
資金運用力

全国にわたる
マンション管理実績

多種多様な資機材の
供給力

全国に拠点を持つ
ネットワーク力

ゼネコン機能を持つ
開発力

事業シナジー

- 資本力を活用した
投資・事業機会の
増大
- 両社の強みを融合
した価値創出プロ
セスの深化
- 事業領域の広域
化と事業分野の多
角化の早期実現

×

=

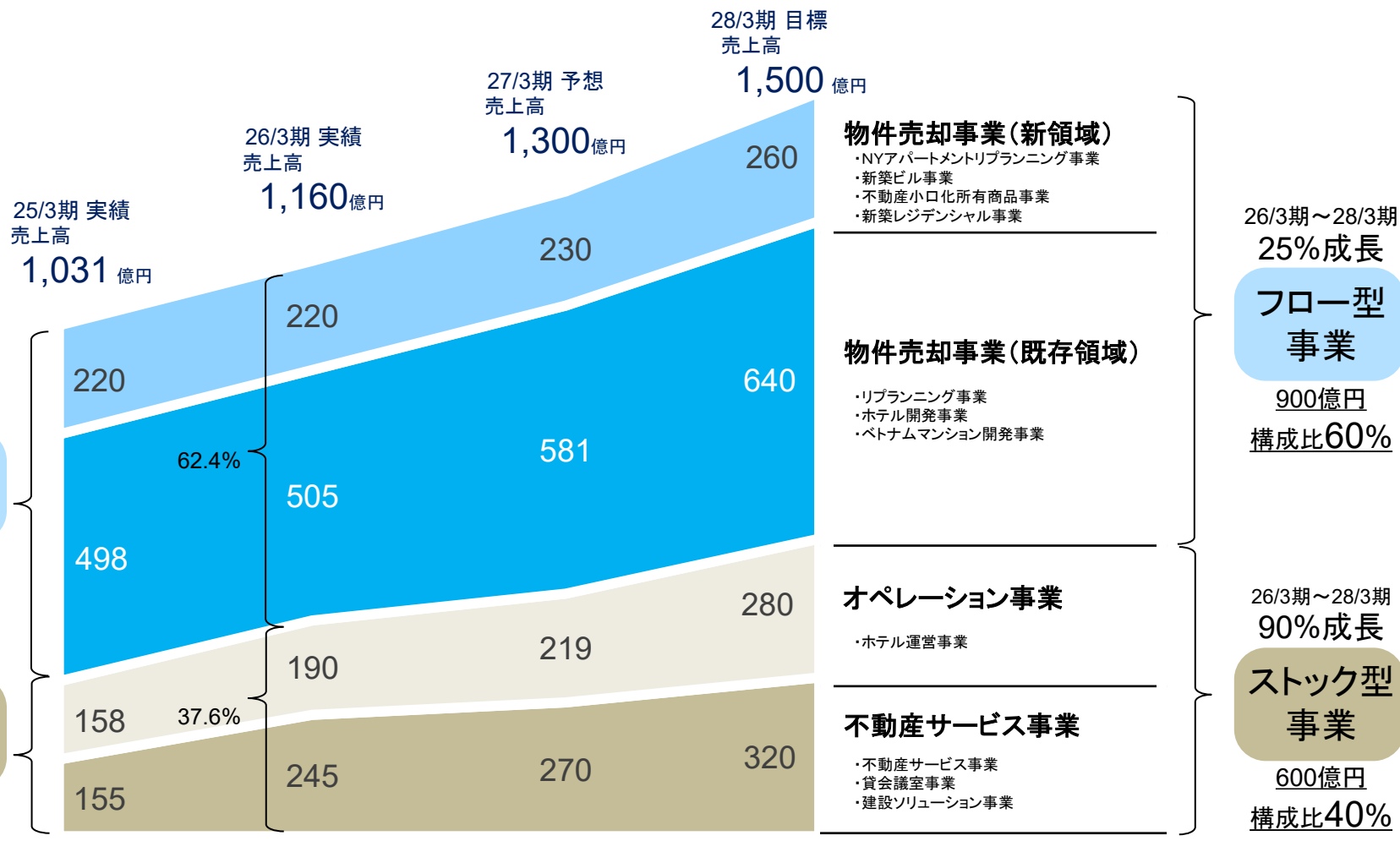
成長戦略

ものづくり力とサービス力を組み合わせた事業モデルで本業連携多角化を進め、資金を有効に循環させ活用しながら、事業領域を拡大し、成長を加速

注力する 3つの市場	事業モデル	事業領域	エリア	資本業務提携 の効果
オフィス	開発	リノベーション	東京	大阪
		事業領域拡大 新築		
	不動産小口所有商品 (不動産特定共同事業)			
	サービス	不動産サービス		
	運営	貸会議室運営		
ホテル	開発	新築	全国	取扱物件の 規模の拡大
		リノベーション		
	運営	ホテル運営		
レジデンシャル	開発	新築	ベトナム	東京
		事業領域拡大 リノベーション	エリア拡大 ニューヨーク	
	サービス	不動産サービス	ベトナム ニューヨーク	

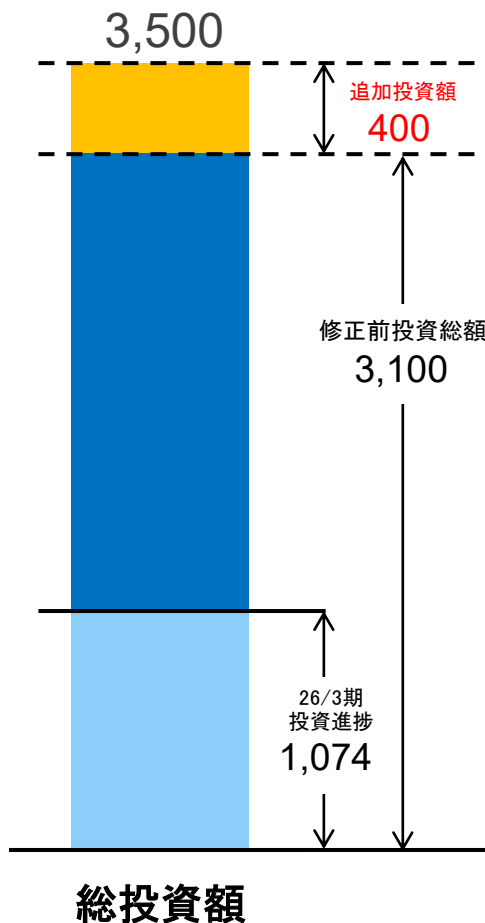
事業成長と収益構造の強化

1. フロー型事業のアセット売却益の多様化とストック型事業の多角化を進める
2. 全体の収益を伸ばしながら、市況変動に強いストック型事業の売上構成比率を高めていく

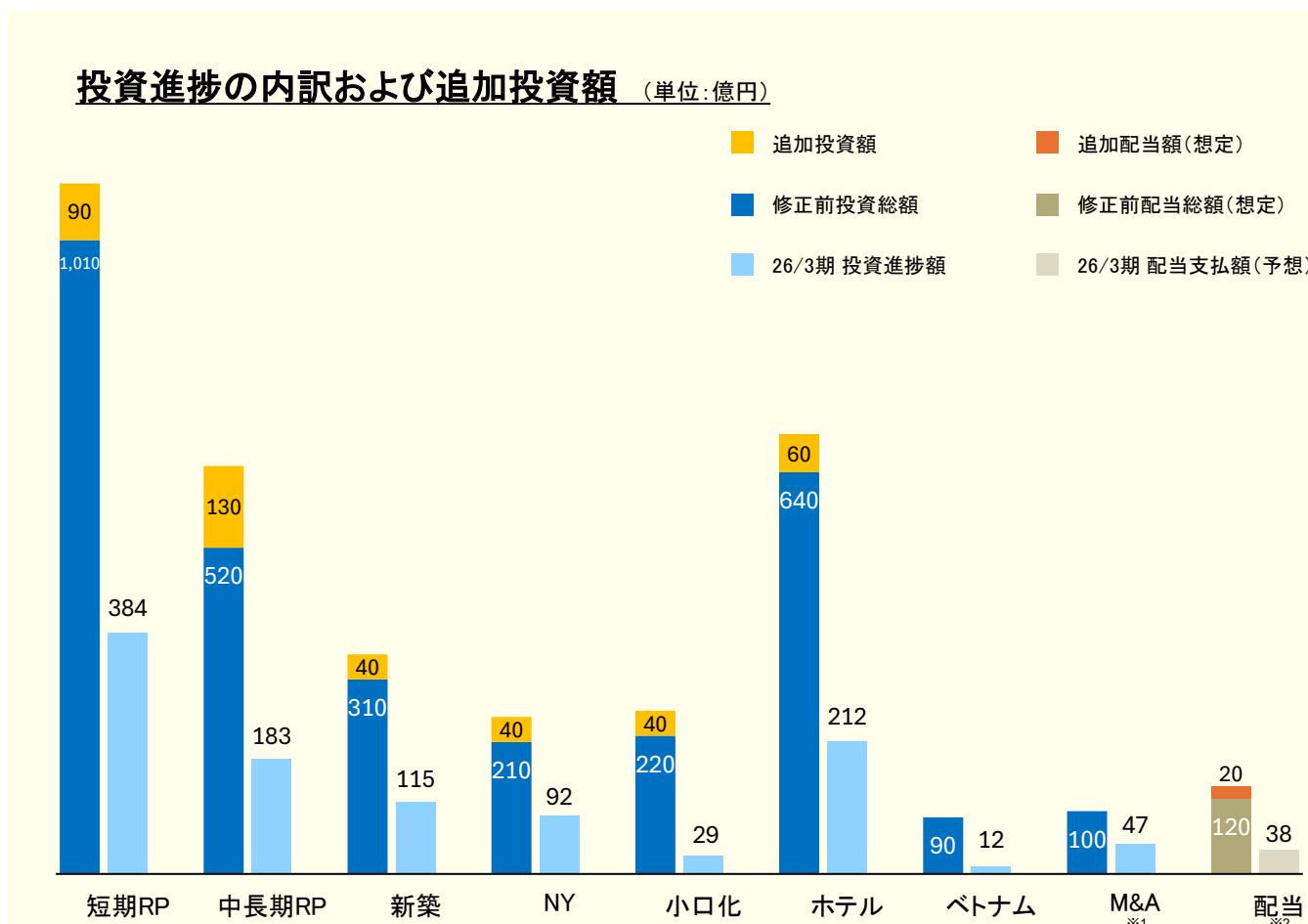


各事業の利益率、回転率を重視した上で、資本コストを意識しつつ、成長分野に積極投資
 中期経営計画2028(26/3~28/3期)の総投資額を3,500億円に上方修正

26/3~28/3期 総投資額 (単位:億円)



投資進捗の内訳および追加投資額 (単位:億円)



※1 不動産M&Aは除く

※2 28/3期末までにCBの株式への転換が進み、発行済み株式数が増すことを想定



事業の取り組み

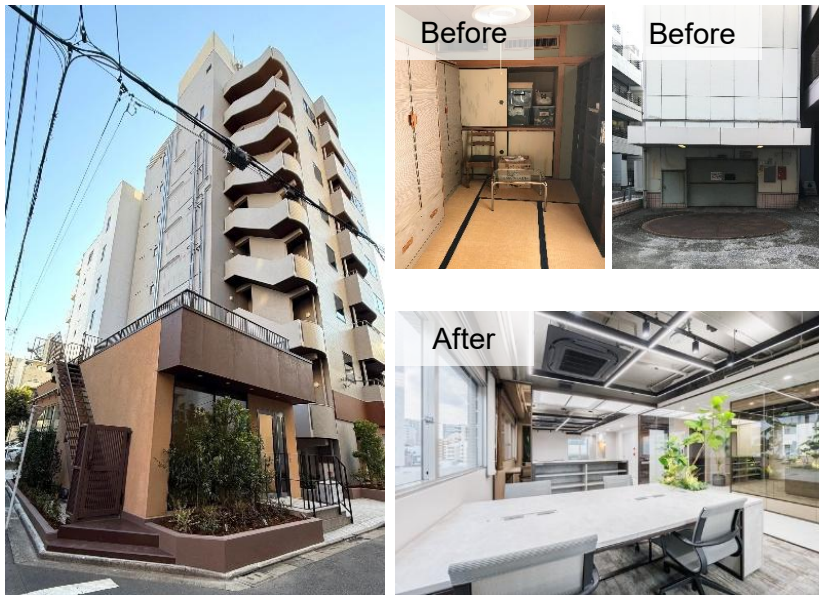


SUN FRONTIER

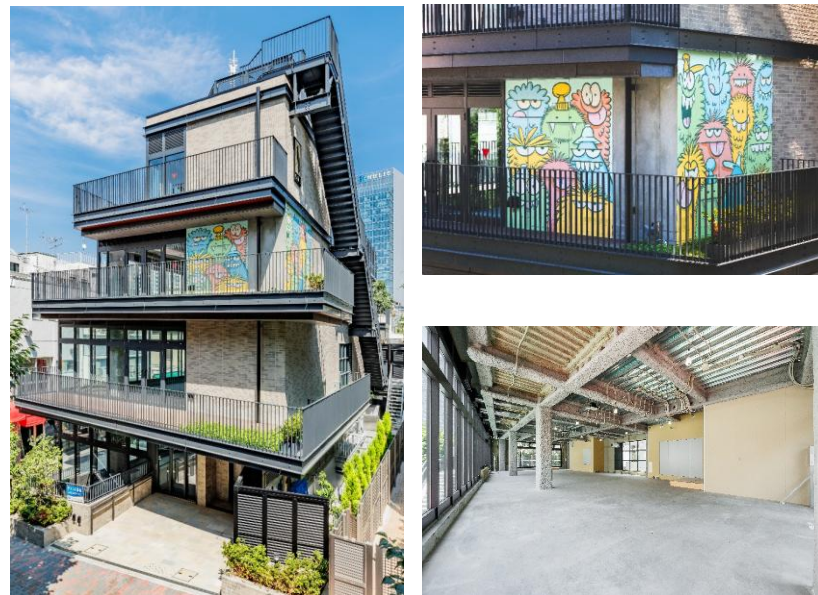
街の活性化に貢献する不動産の価値創造へ挑戦

リノベーションや新築により、物件の潜在価値を引き出し、資産価値を最大化

【リプランニング事業】



【新築ビル事業】



【渋谷区東 一棟収益ビル】

鉄骨鉄筋コンクリート造、陸屋根、地上8階建

- ・CASBEE「Sランク」取得による高い環境性能を実現
- ・住居区画および駐車場をオフィスにコンバージョンし、収益力を向上
- ・二重窓設置による遮音性を高め、快適な執務環境を実現

【渋谷区神宮前 一棟収益ビル】

鉄骨鉄筋コンクリート造、陸屋根、地下1階地上4階建

- ・回遊動線の創出により、人流を生み出し、街全体の価値を向上
- ・壁面アートを設け、賑わいを創出し、街の魅力を向上
- ・旧耐震物件の建替により、安全性を確保し、街の象徴となる価値を創出

多様な不動産小口所有商品の開発を推進

東京および大阪都市圏で開発を進め、お客様の分散投資のニーズに応える商品を提供



大阪箕面一棟 新築 クリニックモール
鉄骨造、陸屋根、地上5階建
26年1月 販売開始



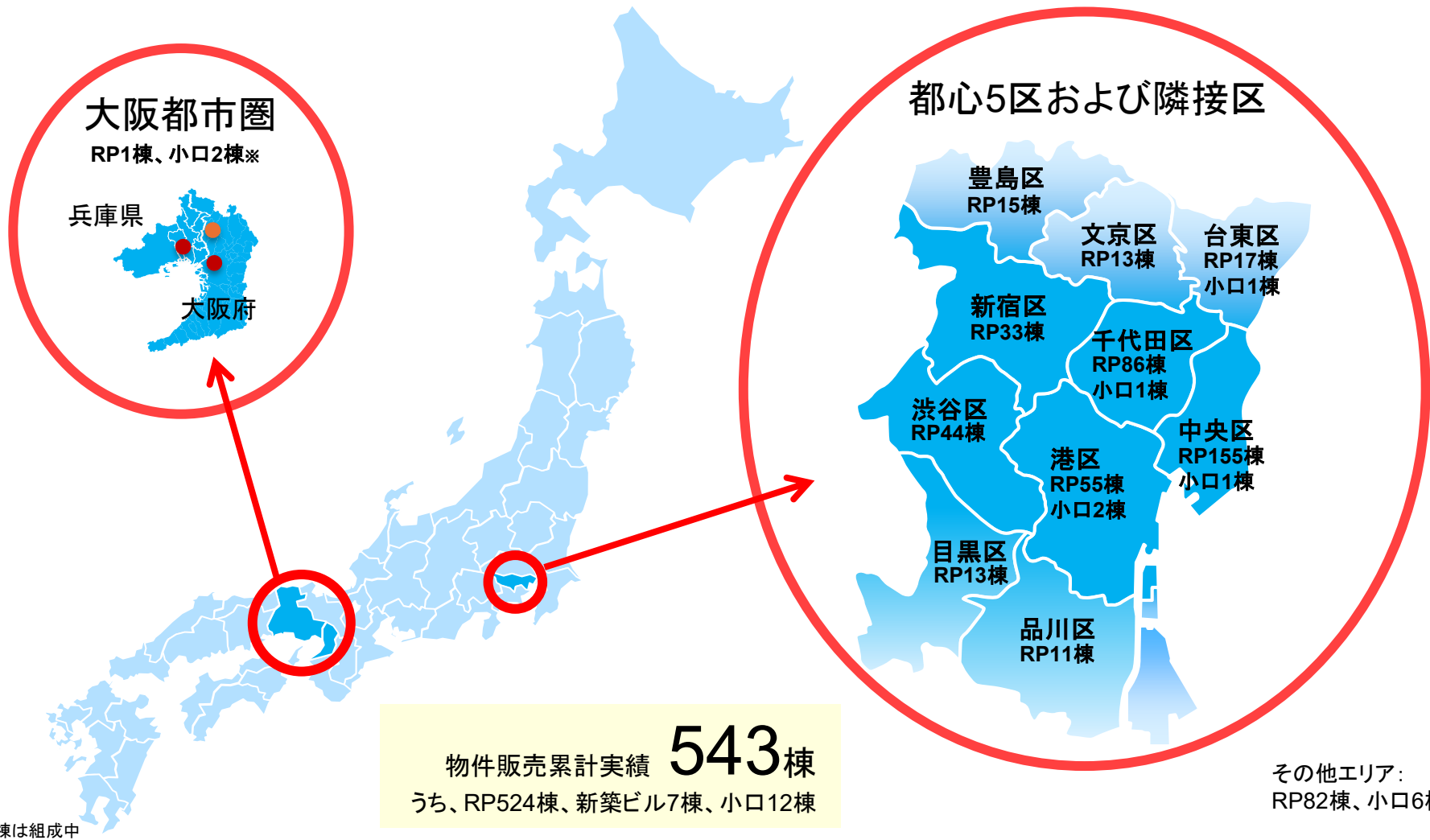
兵庫西宮一棟 新築 クリニックモール
鉄骨造、陸屋根、地上5階建
25年12月売却



慶応義塾大学前 地主プロジェクト
東京都港区三田エリア 土地83.27坪
25年7月売却

オフィスビルの再生や小口所有商品の開発エリア拡大

都心での事業深化に加え、大阪都市圏にも拡大し、地域の活性化に貢献

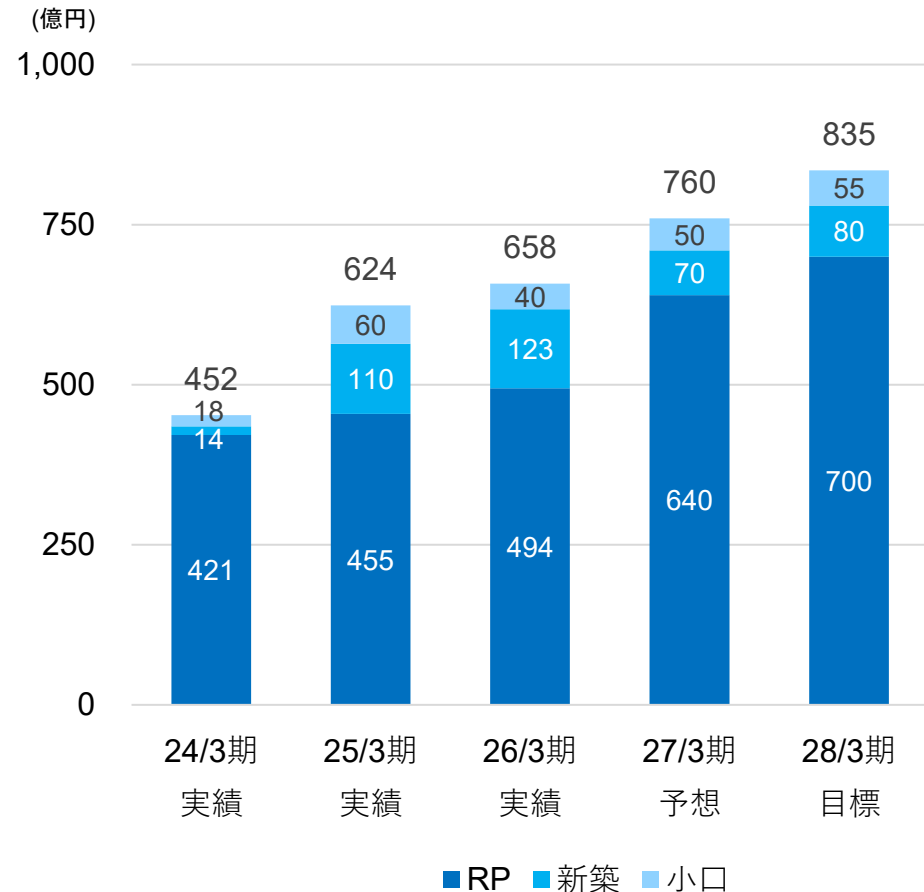
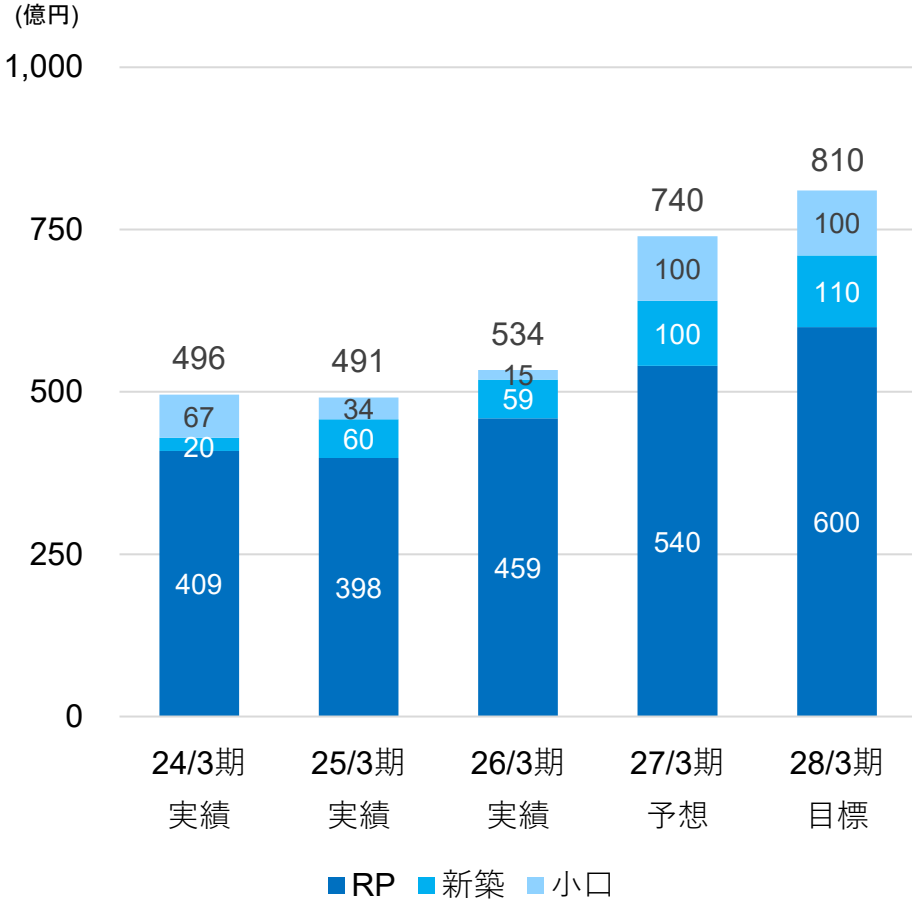


オフィス事業のアセットタイプおよび売上規模の拡大

アセットタイプを多様化させつつ、積極的な仕入れを行い、事業規模の拡大へ

アセットタイプごとの仕入額

アセットタイプごとの売上高

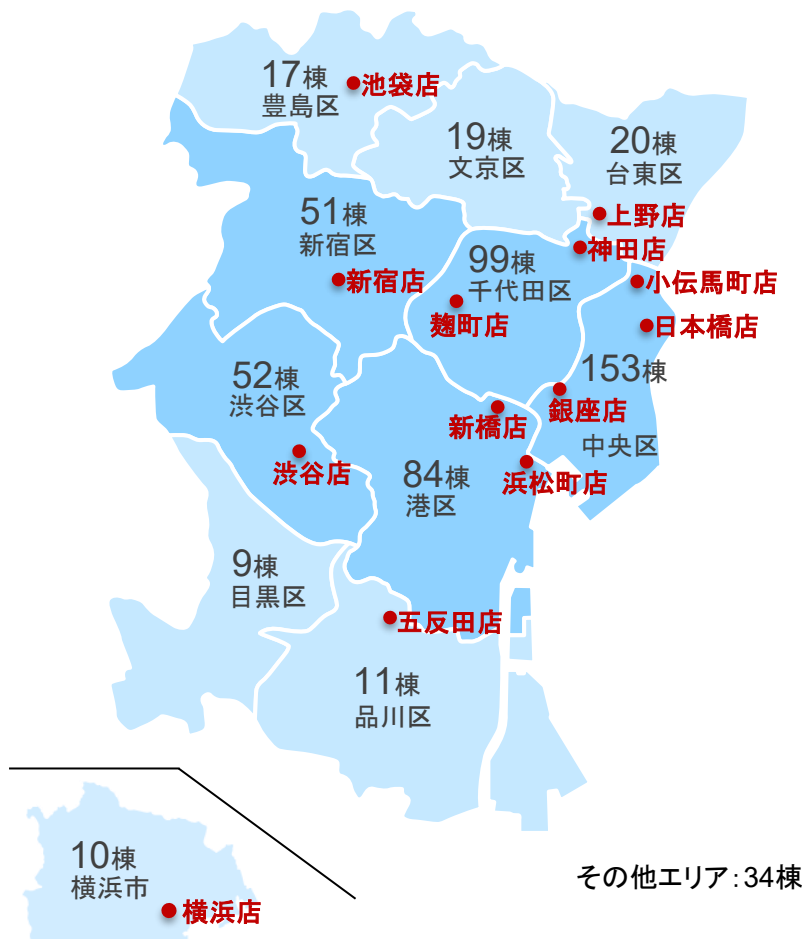


※NYおよびレジデンスを除く

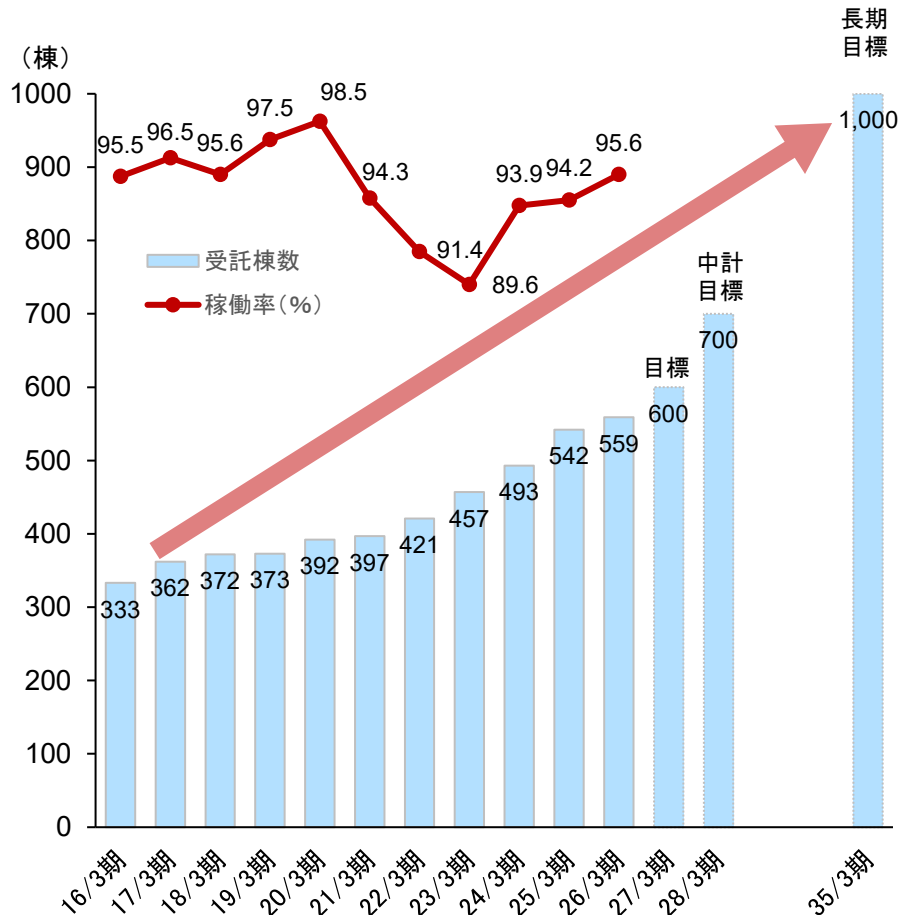
事業部間の連携を強化し、顧客基盤を拡大

地域密着型の支店網を活かしたサービス内容の拡充により、PM受託棟数を拡大

各支店およびPM受託棟数の分布



管理受託棟数および稼働率の推移



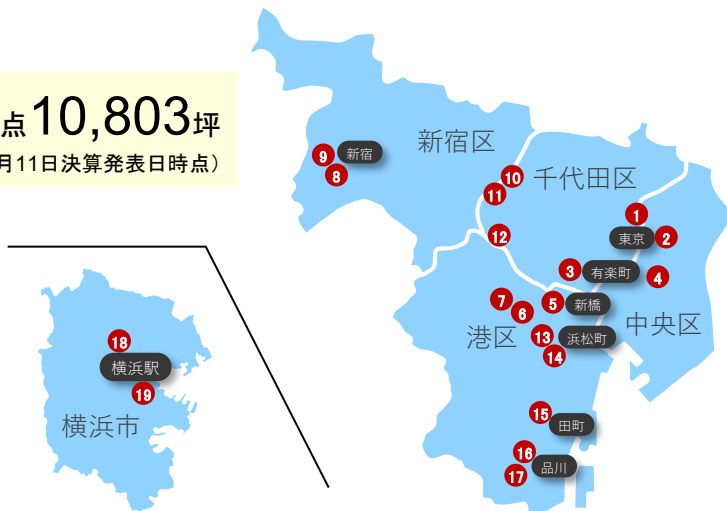
新拠点の開発と顧客基盤の増強で事業拡大へ

積極的に新拠点を開発。多様なニーズに沿った提案と心温かいサービスで、顧客基盤を増強

◆ビジョンセンター 拠点分布

19拠点 10,803坪

(5月11日決算発表日時点)



東京・八重洲・丸の内エリア

- ① 東京八重洲 324坪
- ② 東京駅前 ※26.4増床 353坪
- ③ 有楽町 138坪
- ④ 東京京橋 782坪

新橋・虎ノ門エリア

- ⑤ 新橋 390坪
- ⑥ 東京虎ノ門 776坪
- ⑦ 虎ノ門溜池山王 443坪

新宿エリア

- ⑧ 新宿マインズタワー 687坪
- ⑨ 西新宿 789坪

赤坂・市ヶ谷エリア

- ⑩ 市ヶ谷 ※26.4増床 613坪
- ⑪ 市ヶ谷駅前 ※26.4オープン 349坪
- ⑫ 赤坂(永田町) 248坪

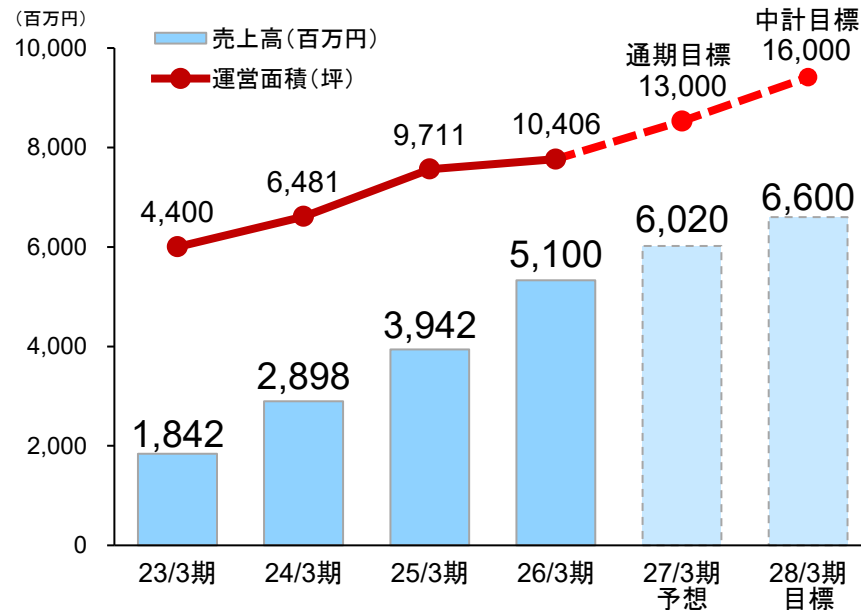
田町・品川・浜松町エリア

- ⑬ グランデ東京浜松町 1,456坪
- ⑭ 浜松町 431坪
- ⑮ 田町 954坪
- ⑯ 品川アネックス 444坪
- ⑰ 品川 641坪

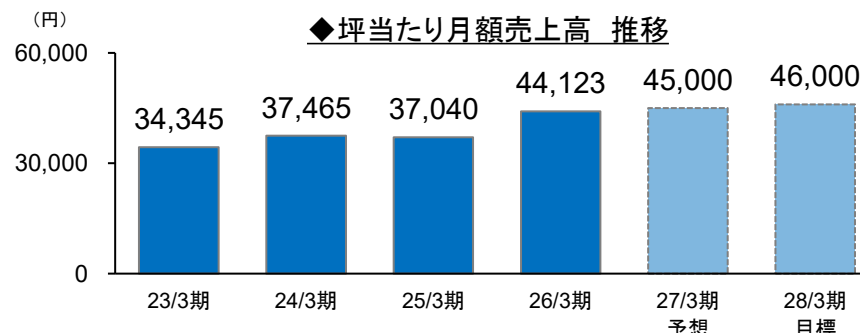
横浜・みなとみらいエリア

- ⑱ 横浜(西口) 558坪
- ⑲ 横浜みなとみらい 427坪

◆売上高、ビジョンセンター運営面積 推移



◆坪当たり月額売上高 推移



※坪あたり売上高は、会議室の室料、ケータリング料等の合計を運営面積で割った数値

心温かいサービスで世界でたった一つのホテルへ

一度のご滞在を、一生のご縁に！

お客様に心温かいサービスをご提供するとともに、開発やM&Aを積極的に推進し、運営客室数を拡大

- ◆ ラグジュアリー
- ◆ エグゼクティブ
- ◆ 日和ホテル
- ◆ たびのホテル
- ◆ オリジナルコレクション
- ◆ スカイハートホテル
- ◆ 建設中・開発中ホテル

中部

- ◆ HOTEL OOSADO
- ◆ HOTEL AZUMA
- ◆ たびのホテル飛騨高山
- ◆ たびのホテル佐渡 (本館・Annex・Live I・Live II) (Annexは2026.4開業)
- ◆ たびのホテルlit松本
- ◆ サンライズ城が浜 (2026.4)
- ◆ 勝山温泉センター 水芭蕉 (2026.4)
- ◆ 長野リンデンプラザホテル
- ◆ スプリングサニーホテル 名古屋常滑駅前
- ◆ ドンデン高原ロッジ 自然リゾート
- ◆ たびのホテルlit豊川 (2026.11)
- ◆ 日和ホテル勝山
- ◆ HIYORIテラス軽井沢Spa & Resort
- ◆ HIYORIテラス富士山河口湖Spa & Resort
- ◆ 空庭テラス箱根湯本
- ◆ 熱海ホテルPJ

中国・四国

- ◆ 日和ホテル松山 (2026.4)
- ◆ たびのホテル倉敷水島
- ◆ スカイハートホテル下関

九州・沖縄

- ◆ オリエンタルヒルズ沖縄
- ◆ HIYORIオーシャンリゾート沖縄
- ◆ たびのホテルlit宮古島
- ◆ たびのホテルVilla宮古島
- ◆ たびのホテル阿蘇熊本空港 (2026.4)
- ◆ スカイハートホテル博多
- ◆ 日和ホテル沖縄名護
- ◆ HIYORIテラス石垣島Spa & Resort

近畿

- ◆ 四条河原町温泉 空庭テラス京都 別邸
- ◆ 四条河原町温泉 空庭テラス京都
- ◆ STITCH HOTEL KYOTO
- ◆ 日和ホテル大阪なんば駅前
- ◆ 日和ホテル大阪住之江公園駅前
- ◆ 日和ホテル大阪新世界
- ◆ 日和ステイ京都鴨川
- ◆ 日和ホテルFlex大阪道頓堀
- ◆ たびのホテル加古川別府駅前
- ◆ 神戸プラザホテル
- ◆ 神戸プラザホテルウエスト
- ◆ 日和ホテル近鉄奈良駅前

北海道

- ◆ たびのホテル石狩

東北

- ◆ 静楓亭
- ◆ たびのホテル青森六ヶ所村 (2026.10)
- ◆ たびのホテルlit酒田 (2027.1)
- ◆ たびのホテルlit秋田駅前 (2027.2)

関東

- ◆ 静寂とまごころの宿 七重八重
- ◆ 日和ホテル舞浜
- ◆ たびのホテルEXpress成田
- ◆ たびのホテル鹿島
- ◆ スカイハートホテル京成小岩駅前
- ◆ スカイハートホテル川崎
- ◆ たびのホテル宇都宮ゆいの杜 (2026.8)
- ◆ STITCH HOTEL GINZA EAST

現状	客室数	ホテル数
運営中	4,217室	38ホテル
建設中	1,400室	9ホテル
計画中	758室	7ホテル
合計	6,375室	54ホテル

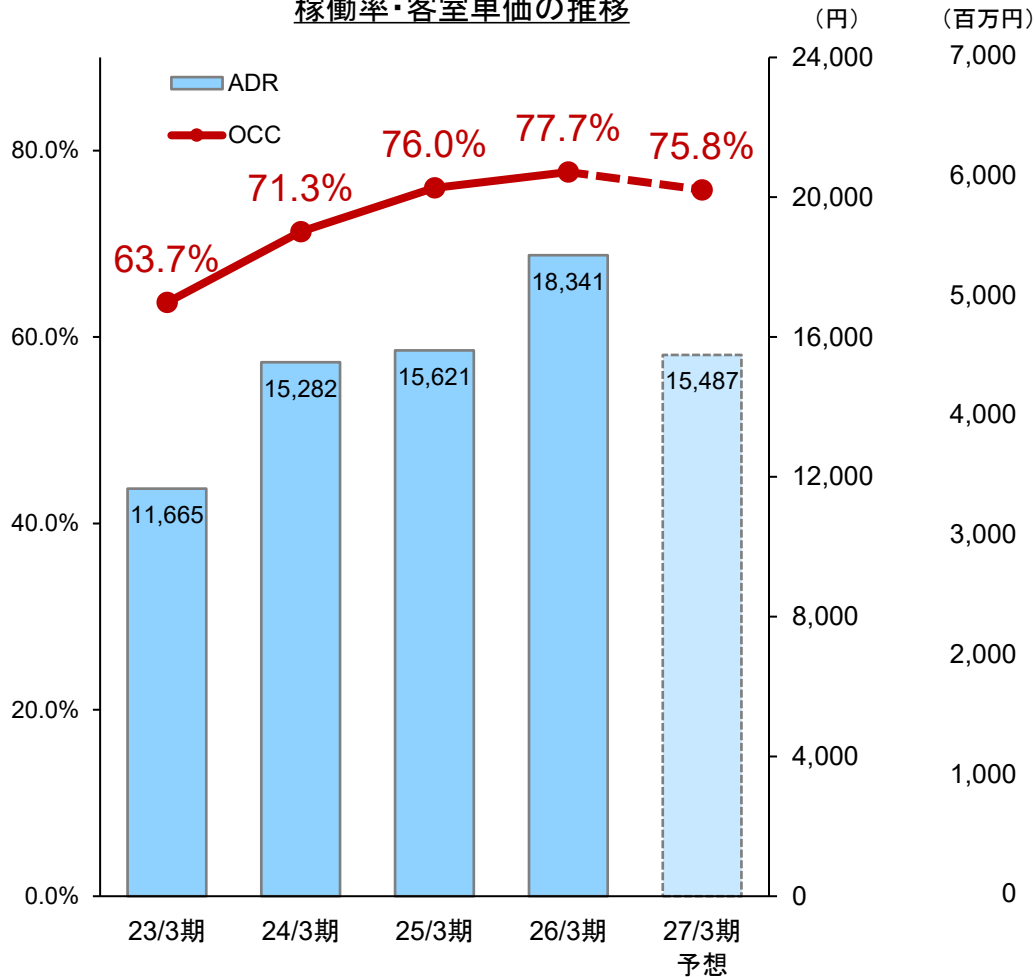
(5月11日決算発表日時点)



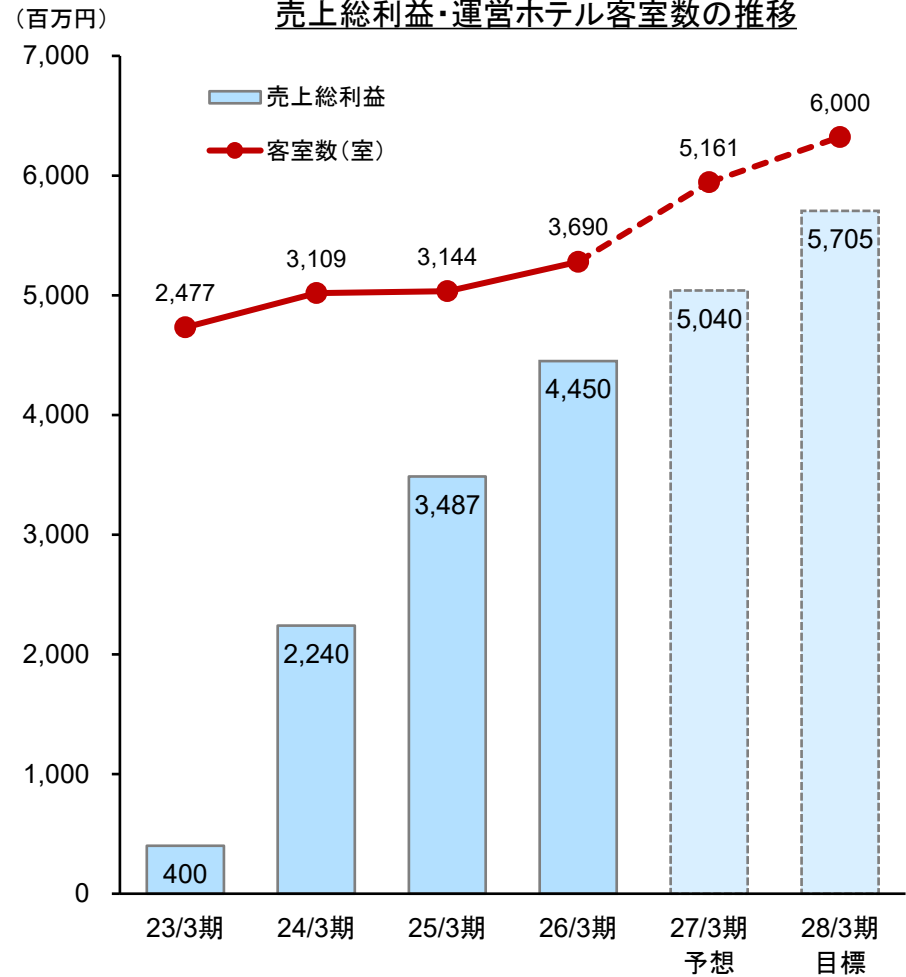
稼働率・客室単価および売上総利益の推移と目標

中国のインバウンド需要の低迷と新規開業の影響により、稼働率・客室単価が前期比で低下傾向も、「心温かい楽しいホテル」をテーマに、オペレーション力を強化

稼働率・客室単価の推移



売上総利益・運営ホテル客室数の推移



都市部で賃貸マンションを展開し、事業を拡大

人口増加が続く国・地域で、それぞれの特性に合わせたレジデンシャル事業を展開

【ベトナム分譲マンション開発事業】

日本仕様の高い品質と企画で、良質な住宅を供給し、現地の高まる住宅需要に応える



RC造 地下2階付25階建
1LDK:22室、2LDK:176室、3LDK:4室

【NYアパートメントリプランニング事業】

築年数100年超のアパートメントの内装設備等のリプランニングを行って、投資家に販売



レンガ造 地下1階付6階建
2LDK:3室、3LDK:15室、4LDK:1室

【東京新築レジデンス・レジデンス再生事業】

防音マンションの新築開発と既存レジの再生の組み合わせで、多様なお客様のニーズに応える



RC造壁式構造 4階建
1K:11戸、2DK:1戸、2LDK:1戸

事業成長の加速とシナジー創出のためにM&A強化

M&Aを積極的に活用し、事業領域の拡大・既存事業の強化を推進

		不動産	ホテル	建設
2010	そのまんまオフィス！	居抜きオフィス		
2012	(現)SFビルメンテナンス	ビル清掃		
2016	ビジョンセンター・ビジョンオフィス(2019.4分社化)	貸会議室		
	スプリングサニーホテル名古屋常滑		ホテル運営	
	(現)スカイハートホテル		分譲ホテル運営	
2018	(現)HOTEL AZUMA		ホテル運営	
	(現)スカイハートホテル下関		ホテル運営	
2019	(現)SFエンジニアリング			内装仕上げ
2021	(現)SFコミュニケーション			電気通信
	(現)HOTEL OOSADO		HOTEL OOSADO	
	日本システムサービス(2022.7吸収合併)	ビル清掃		
2024	日本都市ホテル開発(2026.4吸収合併)		関西5ホテル運営	
	静楓亭		ホテル運営	
	オリエンタルヒルズ沖縄		ホテル運営	
2025	長野リンデンプラザホテル		ホテル運営	
	大竹建窓グループ			サッシ加工・施工
	静寂とまごころの宿 七重八重		ホテル運営	
	勝山温泉センター 水芭蕉		温浴施設	

※主な取り組みを記載しており、全てのM&A実績を網羅したものではございません



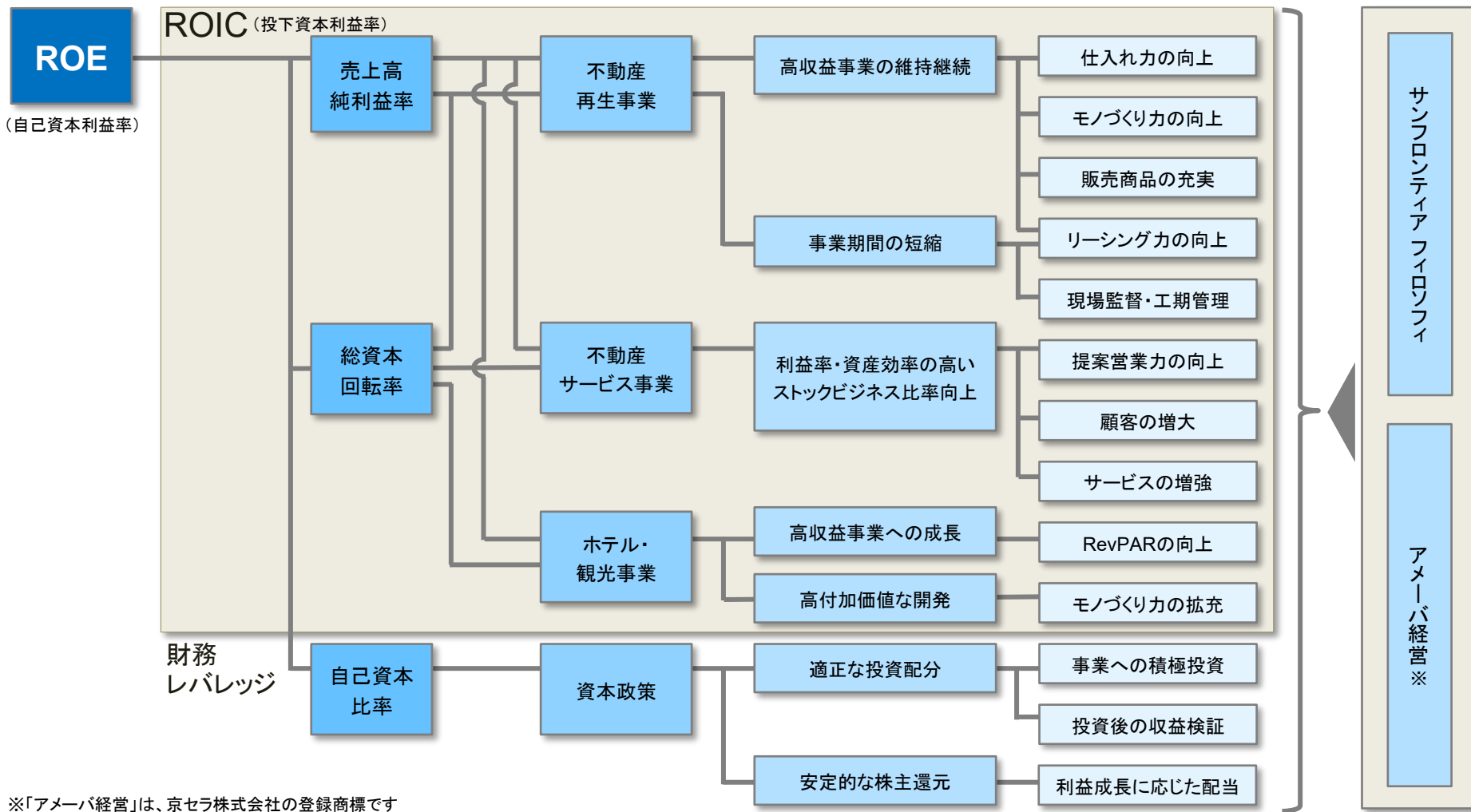
資本コストや株価を意識した経営



SUN FRONTIER

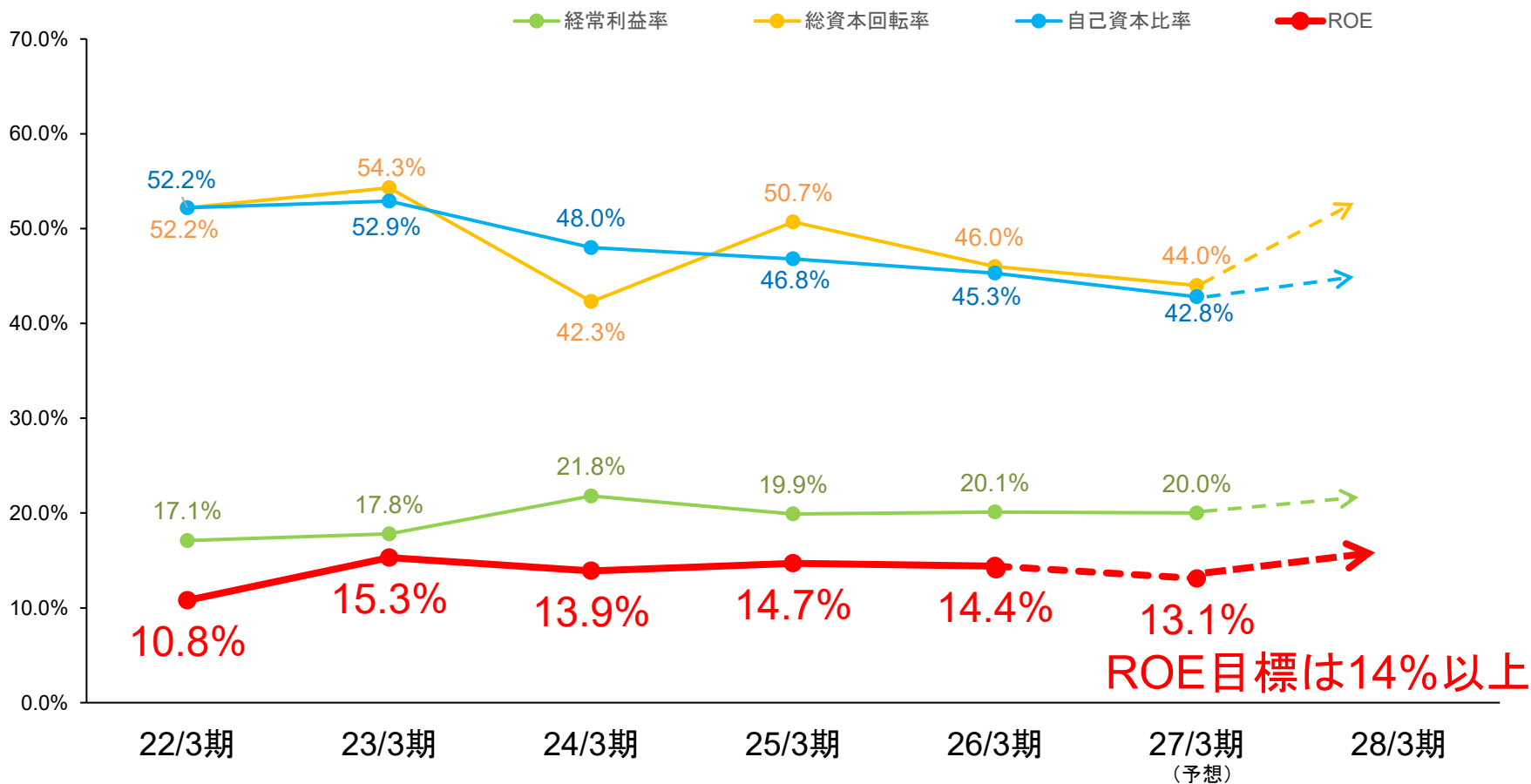
ROE向上ドライバー

フィロソフィとアメーバ経営の浸透が、社員のエンゲージメントを高め、全員参加型経営によって事業を推進、財務規律を守りながら、ROICを高め、ROEの向上を目指す



※「アメーバ経営」は、京セラ株式会社の登録商標です

各指標とROEの推移

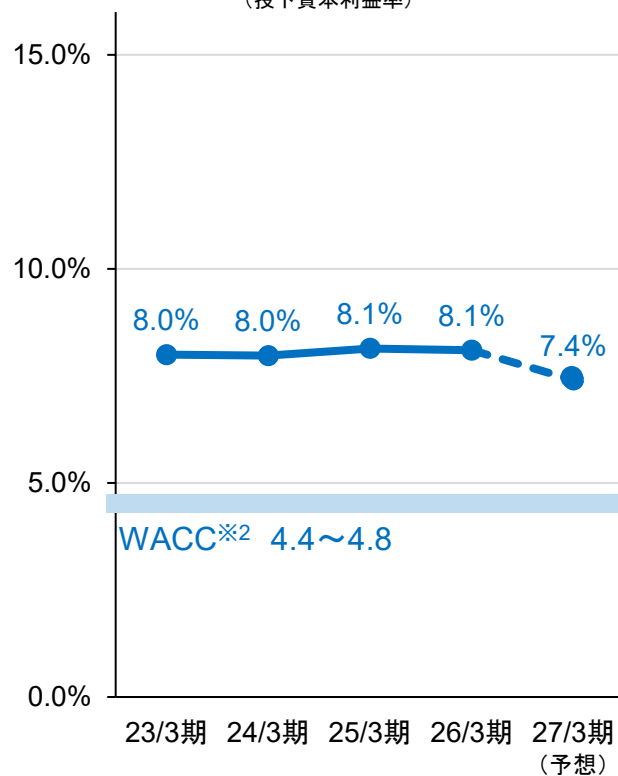


資本コストを上回る収益性を継続

ROICがWACCを上回り続けることで、ROEが株主資本コストを上回り続け、PBRが向上する

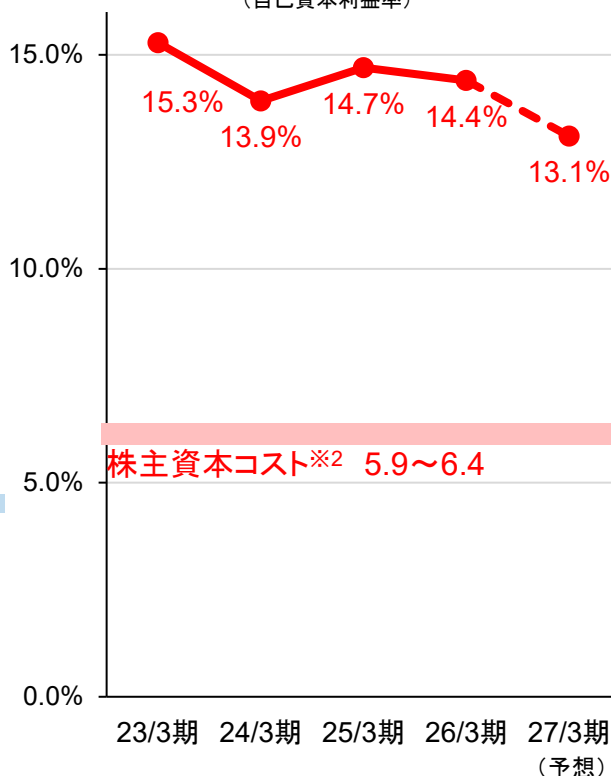
ROIC

(投下資本利益率)



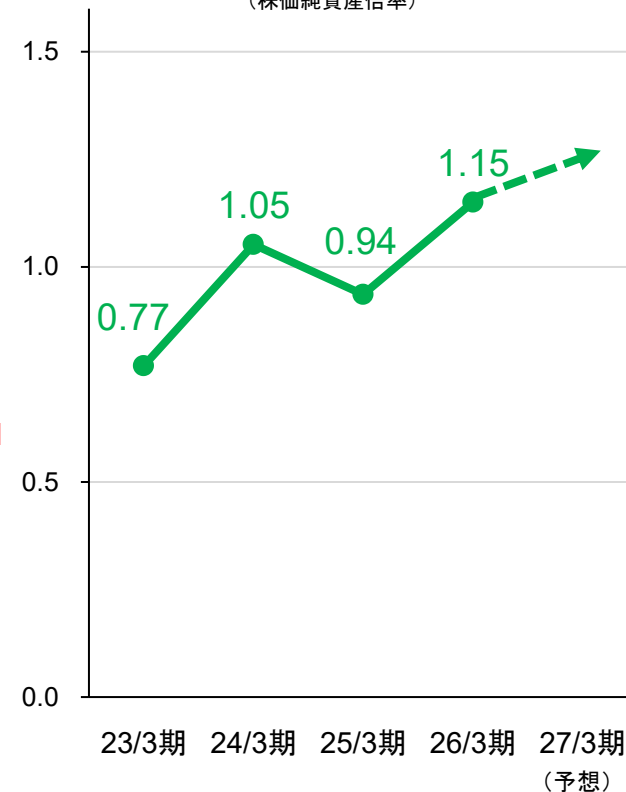
ROE

(自己資本利益率)



PBR ※1

(株価純資産倍率)



※1 PBRは、各期末時点の数値

※2 株主資本コストは、Capital Asset Pricing Modelで算出。株主資本コストは過去5期実績の中央値と同様に5.9~6.4、WACC(加重平均資本コスト)は過去5期実績の中央値と同様に4.4~4.8で推移していくことを想定。




IR活動の強化


資本市場との積極的な対話を図る

サンフロンティアIRサイト



主なIR活動の実績		2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期
決算説明会	代表取締役社長 齋藤 清一 が、毎四半期 開催	4回開催	4回開催	4回開催 (予定)
IRミーティング	代表取締役社長 齋藤 清一 と、IR担当者が個別に随時実施	延べ68回	延べ82回	延べ84回
個人投資家説明会	25/3期は、大和IR主催のオンライン説明会にて実施	1回	1回	1回 (2026.3.7)
物件見学会 <small>※セルサイドアナリスト・機関投資家向け</small>	RP物件内覧会へ招待	9回	5回	5回
	貸会議室見学会へ招待	1回	1回	-

IR資料の開示状況			
決算短信	日本語、英語、中国語サマリーを同時開示		
決算説明資料	日本語、英語、中国語を同時開示		
決算説明会 オンデマンド放送・スクリプト	日本語(動画)、英語(音声)を当日開示		
有価証券報告書	日本語、英語を開示		
株主総会招集通知	日本語、英語を開示		
アナリストレポート	FISCO 【日本語のみ】 	Shared Research 【日本語】 	【英語】 

株主優待制度	
制度概要	保有株数・保有期間に応じて、当社グループ会社運営のホテルご優待割引券を贈呈
利用期間	発行年の7月1日から翌年の6月30日までの1年間
制度内容	詳細につきましては、株主優待制度のHPIにてご確認ください。 https://www.sunfrt.co.jp/ir_info/stockholder_benefit_plan/ 

統合報告書2025の発行

財務・非財務情報の開示を拡充し、より透明性の高い情報発信を推進

当社グループとして初の統合報告書を2025年9月に発行。
創業以来大切にしてきた利他の考え方に加え、経営理念や成長戦略、サステナビリティ経営など、財務情報と非財務情報を統合し、将来の企業価値向上に向けた道筋を包括的に発信

<コンテンツ>

SECTION 01 サンフロンティアの価値観

当社が大切にしている価値観について、歴史を振り返り深掘り

SECTION 02 企業価値の創造と目指す姿

トップメッセージや価値創造プロセスなど、目指す姿を詳しく説明

SECTION 03 価値創造の実践

事業セグメント別成長戦略や新たな挑戦をする社員へのインタビュー

SECTION 04 価値創造を支える「利他」の基盤

ESGに分類し人的資本鼎談や社外取締役インタビューなども交えて掲載

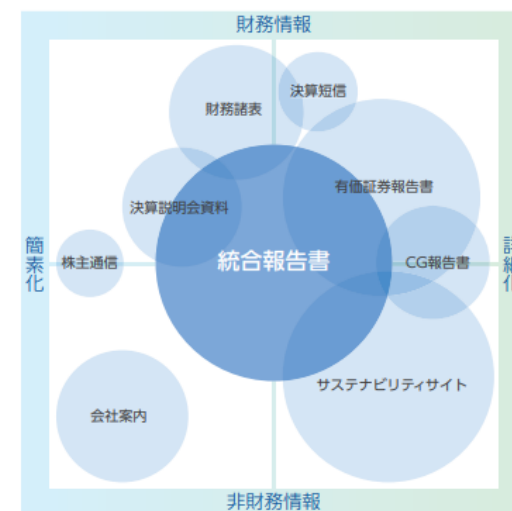
SECTION 05 価値創造の記録

財務と非財務のヒストリカルデータ

表紙



情報開示体系



統合報告書全文





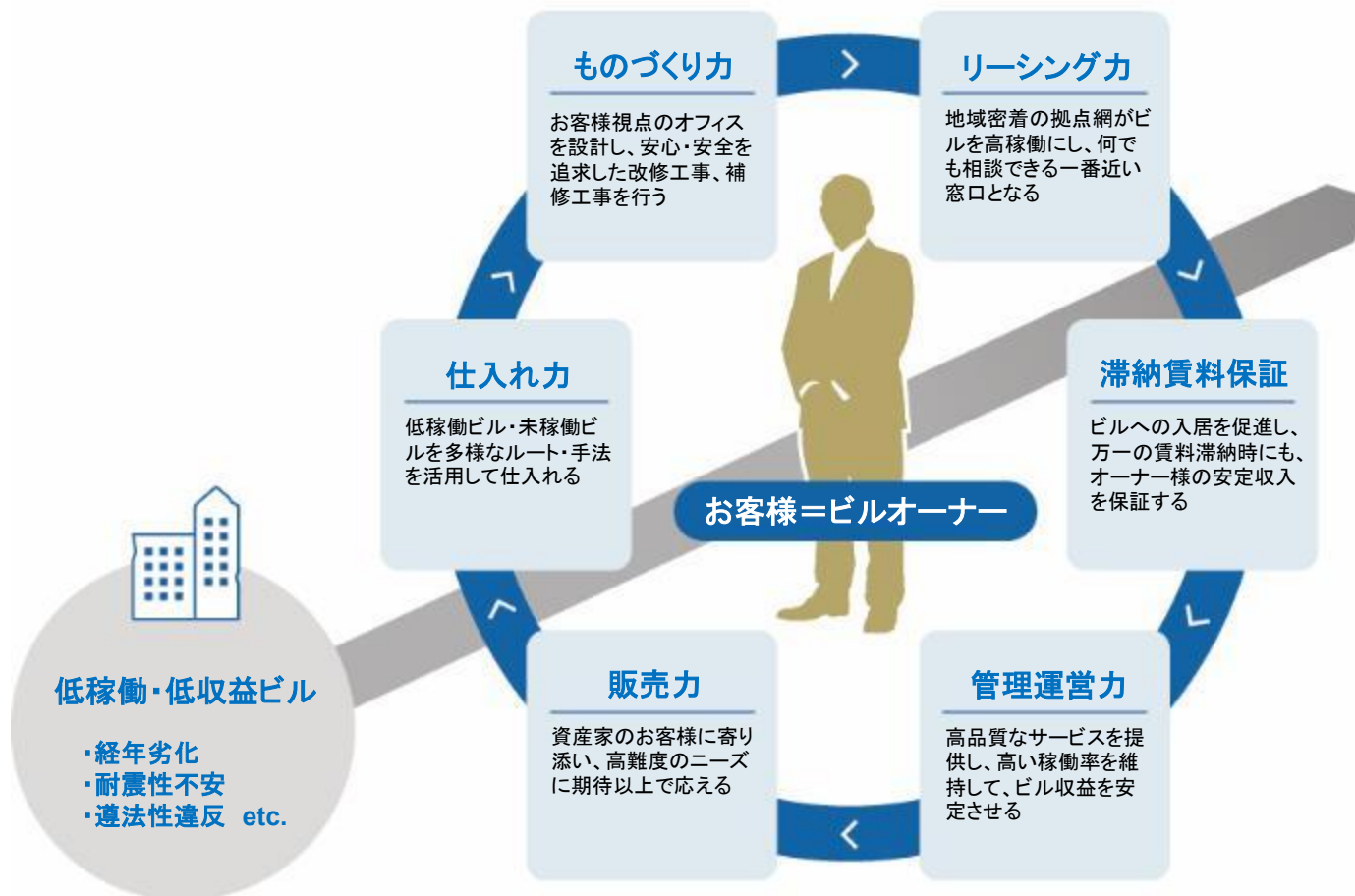
経営理念・ビジネスモデル



SUN FRONTIER

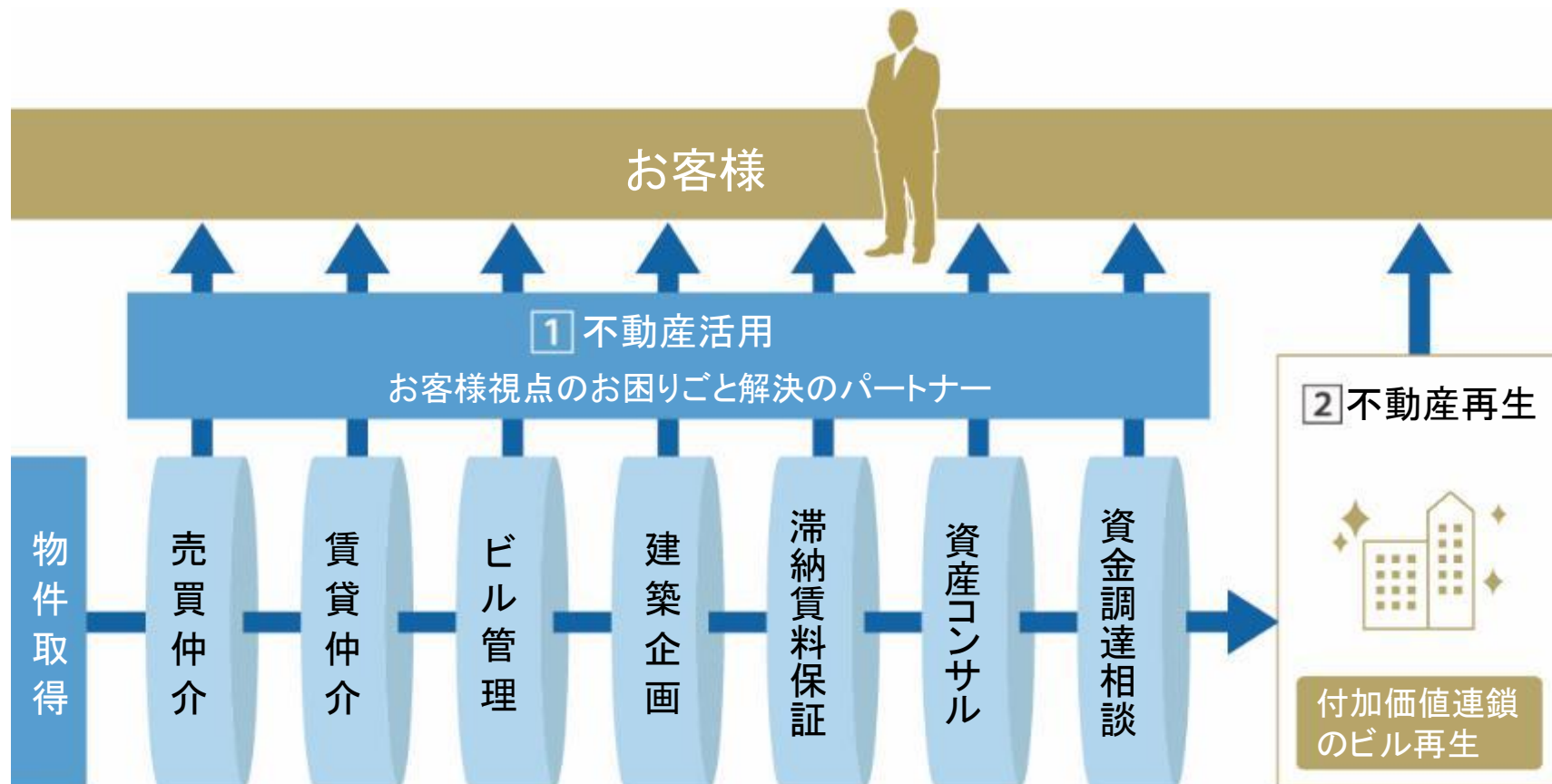
リプログラミング事業のビジネスモデル

稼働率が低下、大規模修繕が必要なオフィスビルを、「お客様視点」に拘ったリノベーションで、社会から求められる高付加価値の不動産にバリューアップ



オフィス事業における強み

仕入れから開発、入居、販売、そしてサポートまでを内製化し、
お客様の意向を細かく把握することで、様々なお困りごとを解決する



① 不動産活用：現場でお客様に寄り添いお困りごとを解決。お客様の声から付加価値の源泉を掴む。

② 不動産再生：資産価値向上のノウハウや掴んだニーズを再生ビルに反映、価値を高め販売。

サステナビリティ・ビジョン

2026年3月期の実績は6月上旬にサステナビリティサイトに開示予定



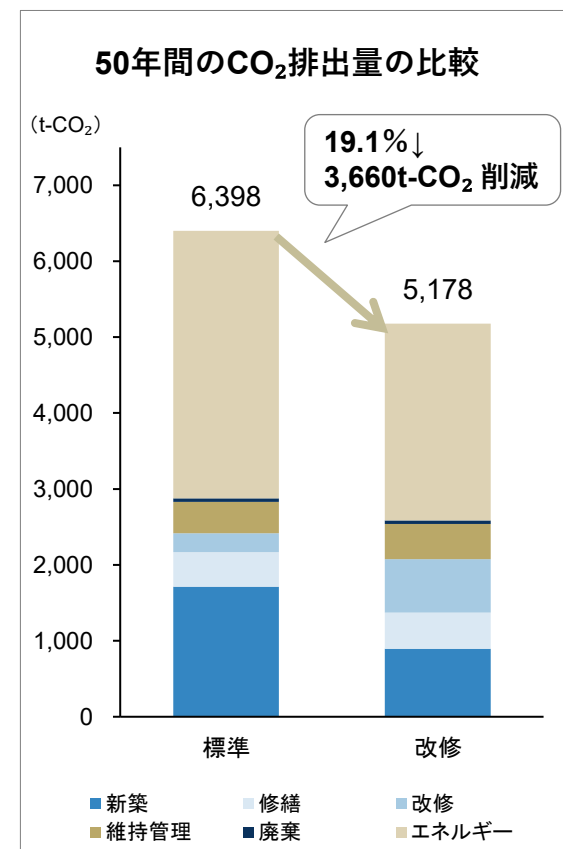
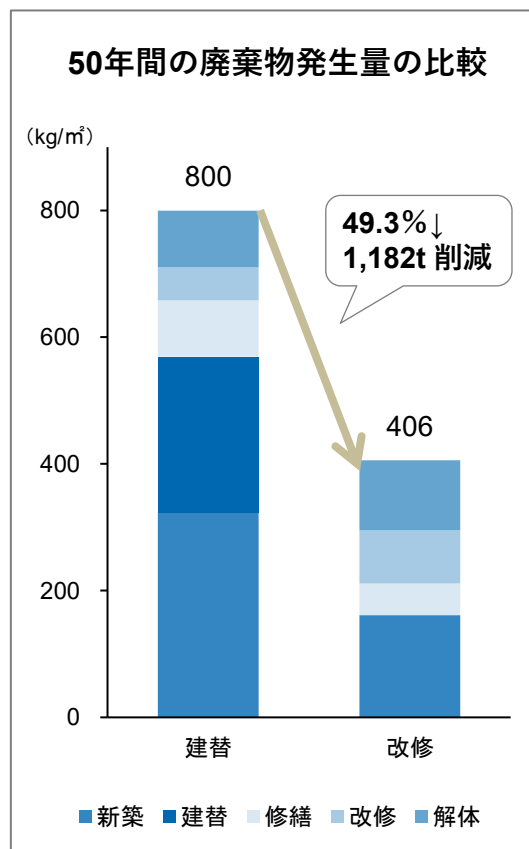
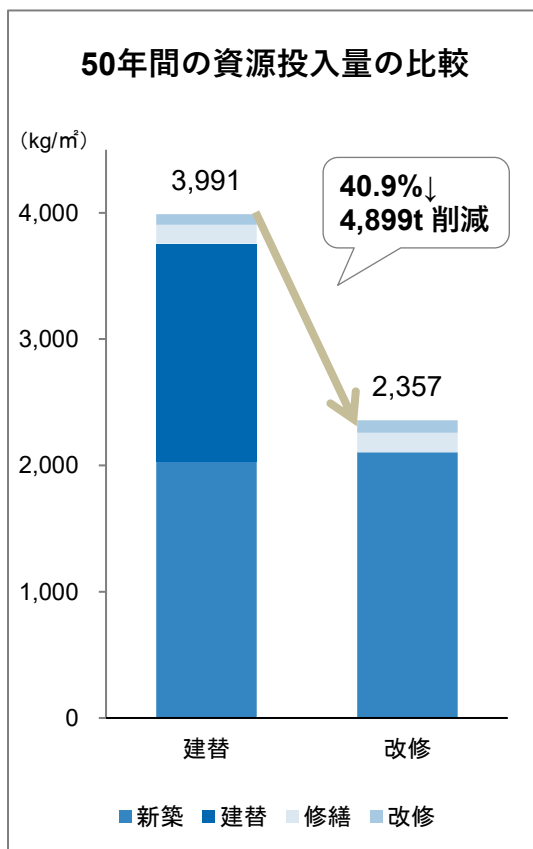
私たちは、社是である利他の心を大切に、事業活動を通して持続可能な社会の実現に貢献していきます。

重要課題	解決すべき社会課題	主要施策	具体的施策	指標と目標 (KPI)	2024年3月期実績	2025年3月期実績	
環境保護	温室効果ガス排出による地球温暖化	事業活動における温室効果ガス排出量の削減	不動産再生の推進による工事での温室効果ガス排出量の抑制	ビルの建替え工事と比較した二酸化炭素排出量の抑制率 12%以上	12.7%	12.8%	
			不動産再生における工事で排出する温室効果ガスをクレジットによりオフセット	不動産再生物件におけるカーボンオフセット実施率 100%	100.0%	100.0%	
			自社での業務活動における温室効果ガス排出量の削減	温室効果ガス排出量 (Scope1,2) を、2022年度比で削減する 2030年度 22%削減 2050年 カーボンニュートラル	1.8%減	11.7%増	
	省資源と廃棄物の削減 (生物多様性)	不動産の健康長寿命化	不動産再生工事によるビルの経済的耐用年数の延長	経済的耐用年数30%以上延長	54.1%	59.5%	
			不動産のトータルサポートにより築年数が長く経過したビルの稼働率を向上	築30年超ビルの稼働率90%以上	93.8%	92.8%	
				築30年超ビルの稼働率を実現するためのビル管理継続率 90%以上	98.0%	98.0%	
地域創生	地域経済の活性化	経済成長に資する「働きがい」「創造性」のあるビル・オフィス・空間づくり	Well-beingに配慮した不動産再生の推進	社内基準を超えるリブランニング物件の新規供給割合 2023年度 30%、2025年度 50%、2030年度 70%	68.8%	76.0%	
				テナントアンケート満足度調査を実施 (自社保有物件)	実施完了	実施完了	
	地域連携による防災、減災			防災用具ないし設置スペースを設けたセットアップオフィスの提供	防災用具ないし設置スペースを設けたオフィスの区画数 2024年度 20区画、2027年度 50区画、2030年度 75区画	9区画	33区画
				テナント様の防災意識の向上に資する情報の提供	専用ホームページへの防災情報掲載率 100% (自社保有物件)	100.0%	100.0%
人材育成	少子高齢化にともなう生産年齢人口の減少 (実質労働力減少) とジェンダーギャップの解消	多様性の尊重と活用	社員のライフステージに合わせた職場環境整備と柔軟な研修機会の提供	2035年度女性管理職比率 15%以上 (サンフロンティア不動産)	10.3%	9.2%	
			「働きがい」「創造性」「成長機会」のある職場づくり	次世代リーダー育成プログラムの構築、外部研修への支援制度等	所定労働時間に対する研修時間割合 2022年度 10%以上、2023年度 12%以上 (サンフロンティア不動産)	12.1%	12.0%
				DX活用、業務プロセス改善、個々の能力向上	時間当たり経常利益額 前年比で増加させる (サンフロンティア不動産 正社員一人当たり)	▲8%	+35.6%

※KPIを定めている具体的施策を抜粋

顧客価値と社会価値の双方を創出

お客様の事業への貢献を通して、社会課題の解決に寄与



<前提条件・根拠>

築30年、約3,000㎡の事務所ビルを想定、50年間(SRCの事務所用の耐用年数)における環境貢献度を日本建築学会LCAツール(※)に基づいて試算
 ・建替:「35年毎に建て替えを行う場合」 ・改修:「老朽化ビルを壊さず再生(ロングライフビル)」 ・標準:「築30年の未改修ビルを想定」

※日本建築学会「建物のLCAツールVer5.0—温暖化・資源消費・廃棄物対策のための評価ツール—」株式会社イー・アール・エスにご協力いただき、試算

ホテルを中核とした地域創生の取り組み

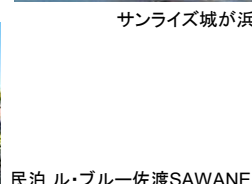
観光で地方を元気に！ 地方が元気になれば、日本が元気になる！

日本は美しい自然をはじめ、歴史と文化、食事や温泉、おもてなし、おもてなし、ローカルな祭りやアウトドアなど、さまざまな魅力がたくさん。国内各地域への関心が高まる中、当社グループは、市町村区等と協定を締結し、地域と連携したホテル開発・運営を通じて、地域経済の活性化に貢献してまいります。



新潟県 佐渡島

- その他事業内容
- ・気軽にレンタカー
 - ・佐渡アウトドアベース
 - ・おけさ観光タクシー



宮古島市

- ・たびのホテルlit宮古島(2021年6月開業)
- ・賃貸用マンションの建築・販売
- ・みやこ下地島空港内 レストランCoral portの運営

加古川市

- ・たびのホテル加古川別府駅前(2025年9月開業)
- ・「災害時における支援協力に関する協定」を締結

石狩市

- ・たびのホテル石狩(2025年10月開業)
- ・「包括連携協定」を締結

六ヶ所村

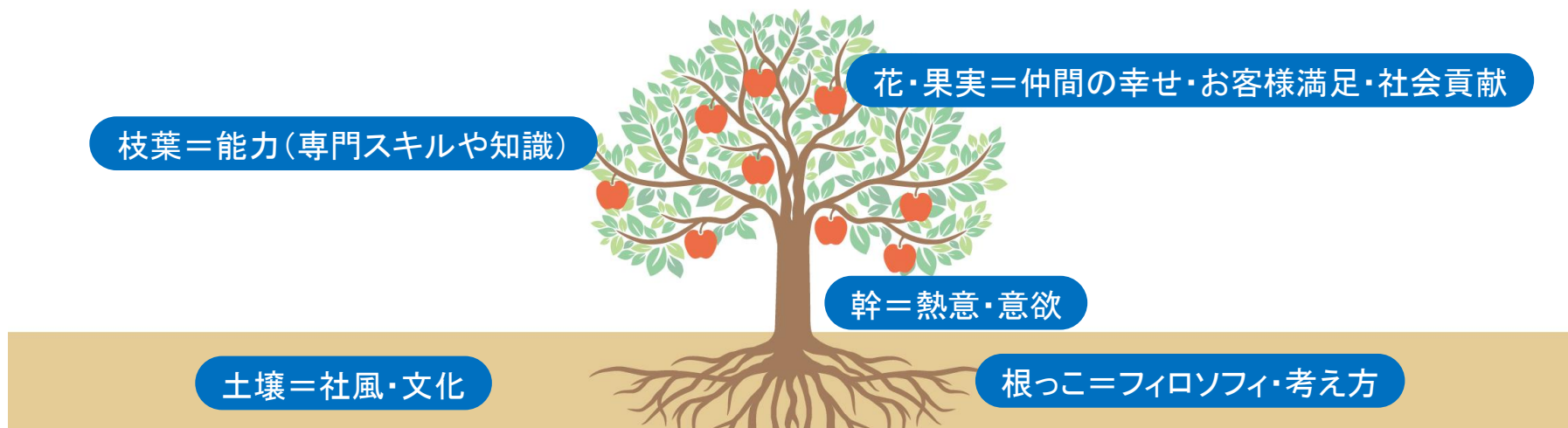
- ・たびのホテル青森六ヶ所村(2026年10月開業予定)
- ・「事業所開設に係る基本協定」を締結

酒田市

- ・たびのホテルlit酒田(2027年1月開業予定)
- ・「地域振興に向けた連携協定」を締結

人財育成に対する考え方

社は「利他」の価値観を共有する仲間とともに、持続可能で豊かな社会の実現に向けて、フロンティア精神を持って、新たな領域を切り開いていける人材を育成します。



人財育成方針

多様性の尊重と活用

環境整備方針

働き甲斐、創造性、成長機会のある職場作り

施策内容

- ・ 社員のライフステージに合わせた職場環境整備と柔軟な研修機会の提供
- ・ 事業の多角化と組織の拡大に向けて、アメンバーリーダー人材を育成、輩出
- ・ 次世代リーダー育成プログラムの構築、外部研修への支援制度等を充実させ、所定労働時間に対する研修時間割合は12%以上
- ・ DX活用、業務プロセス改善、個々の能力向上し、時間当たり経常利益額を前年比で増加

重点施策

人財基盤の強化

お客様視点のものづくりと心温かいサービス

本業連携多角化の推進

中計の基本方針

お客様視点のものづくりと心温かいサービスで、本業連携多角化を推進し、社会課題の解決に取り組む

Environment

2026年3月末時点

国土交通省による、「中小ビルのバリューアップ改修投資の促進に向けたモデル調査事業」に

RP3棟 採択



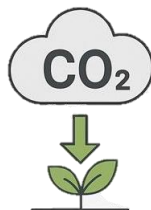
RP実績 棟数
計 **524棟**

カーボンオフセット
累計 3,896t-CO₂e

うち、RP工事
81棟 1,655t-CO₂e



温室効果ガス排出量
抑制率: **12.7%**



管理受託29物件
BELS認証取得

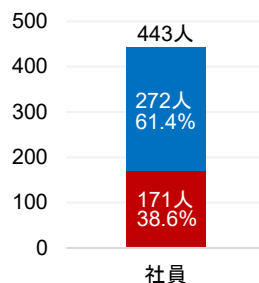


Social

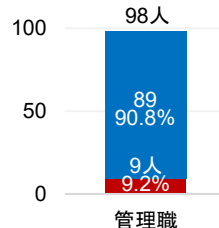
2026年3月末時点

社員・管理職 男女比率

(人) ■男性 ■女性



2025年度
女性管理職比率
目標15%以上



育児休業

男性の取得率: 45.5% (前年比+24.1%pt)
当社育児休暇制度の利用を含む取得率: 72.7%
女性の育児休業からの復職率: 50.0%

人財育成

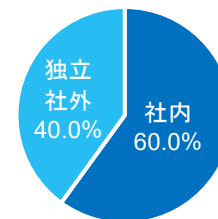
目標: 支援制度等が所定労働時間の12%以上
実績: 12.0%



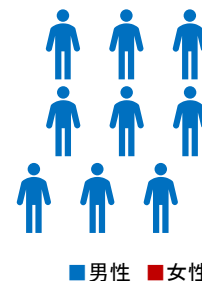
Governance

2026年3月末時点

独立社外役員比率
1/3以上

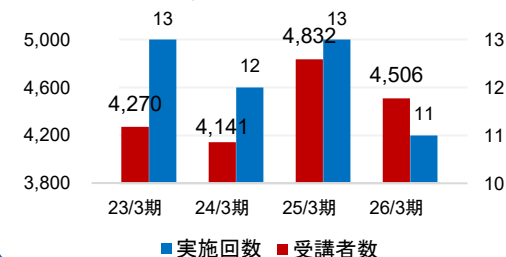


女性取締役
10名中、1名



コンプライアンス関連研修実施率

研修実施回数: 11回
延べ受講者数: 4,506人 (前年比▲326人)



サステナビリティサイト





参考資料

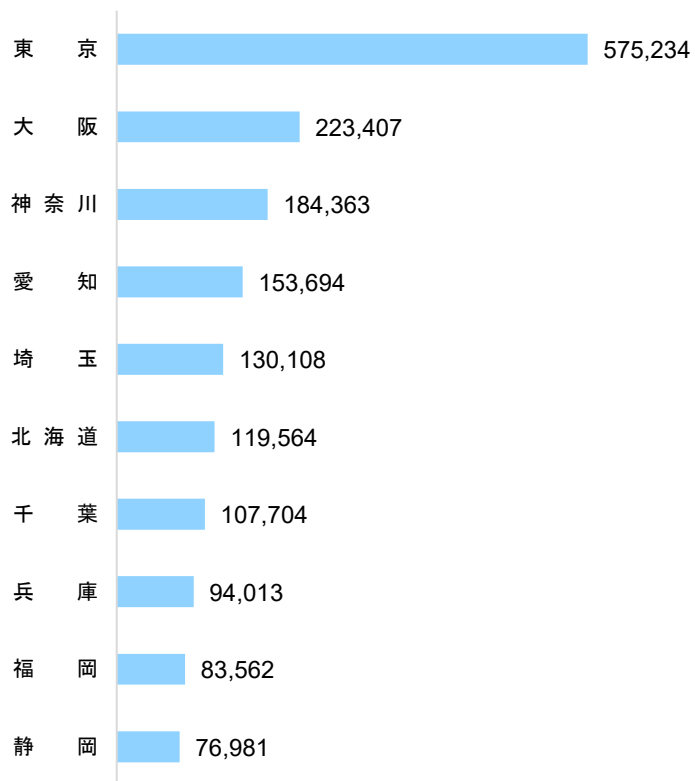


SUN FRONTIER

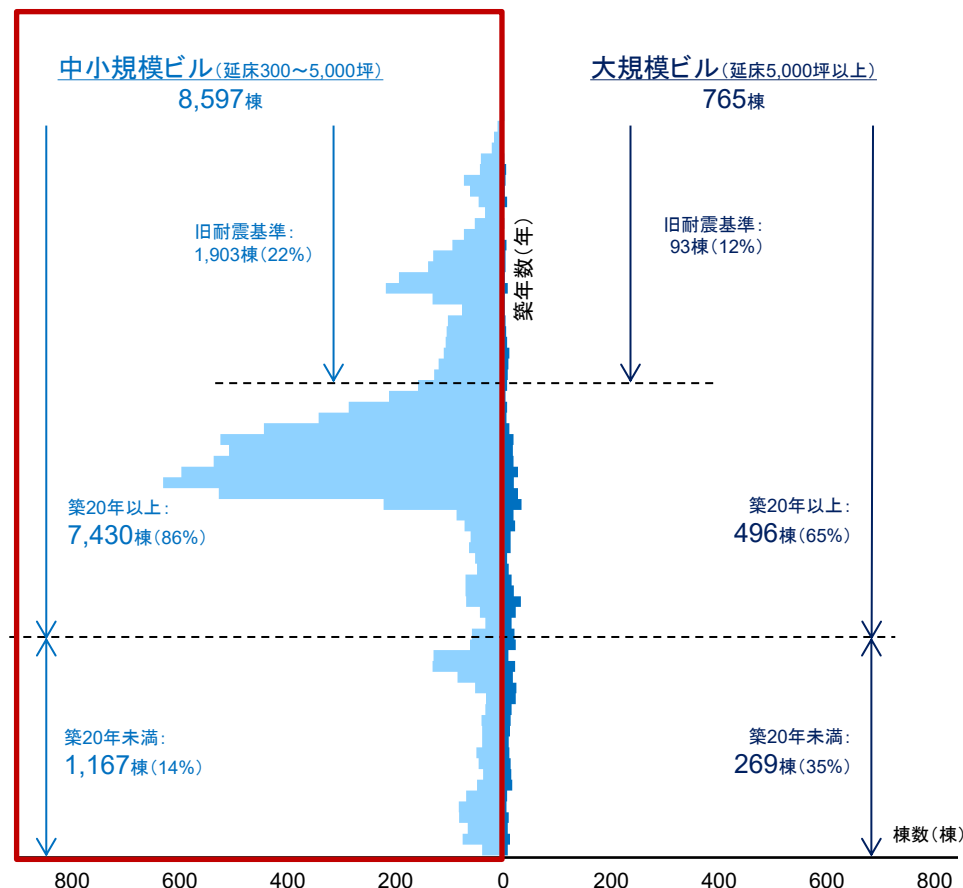
都道府県別の法人数と東京23区内オフィスビル棟数

企業が集積する東京では、中小型ビルの老朽化が進む中、
資源の無駄遣いを抑えた改修や建て替え需要が強い

都道府県別法人数 上位10都道府県



東京23区 9,362棟

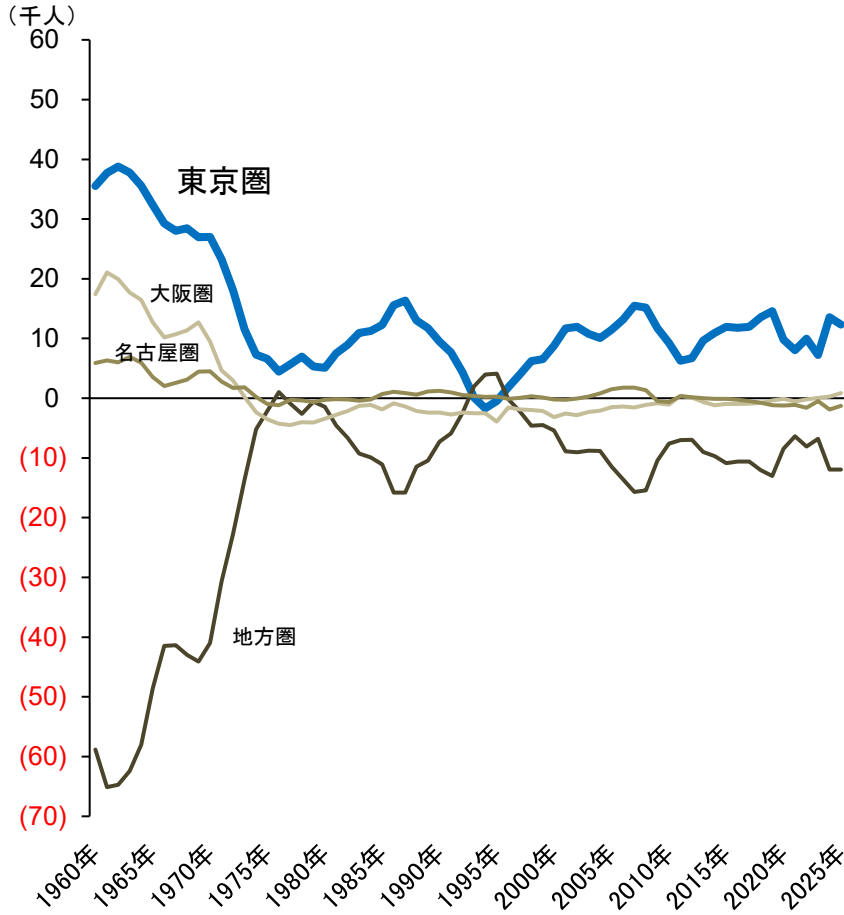


出典: 国税庁「都道府県別法人数等の状況」を基に当社作成

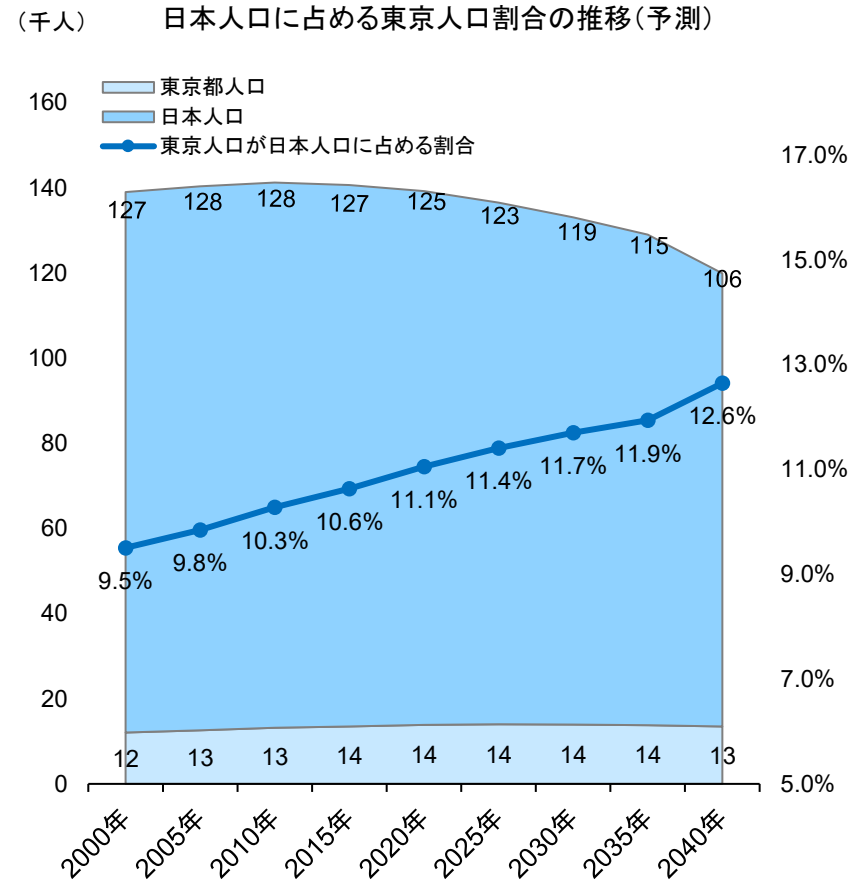
出典: 「東京23区オフィスビルピラミッド2026 (棟数ベース)」(ザイマックス不動産総合研究所)を基に当社作成

東京圏の転入者数と日本の人口動態

東京圏への転入超過が続いており、日本の人口が減少する中において、東京人口の割合は高まっている



出典: 総務省統計「移動前の住所地別転入者及び移動後の住所地別転出者数」を基に当社作成

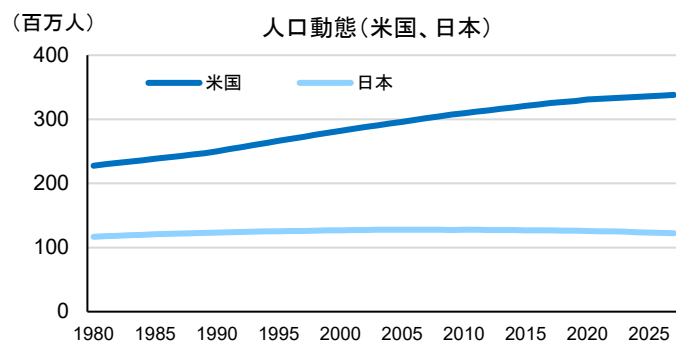


出典: 東京都の統計「東京都の人口(推計)」を基に当社作成

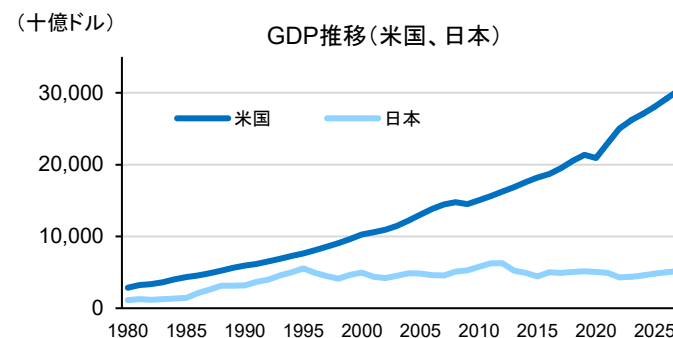
海外市場(アメリカ、ベトナム)について

人口増加と高い成長率が続くアメリカ(ニューヨーク)とベトナム(ダナン)で、日本品質の居住用不動産を提供

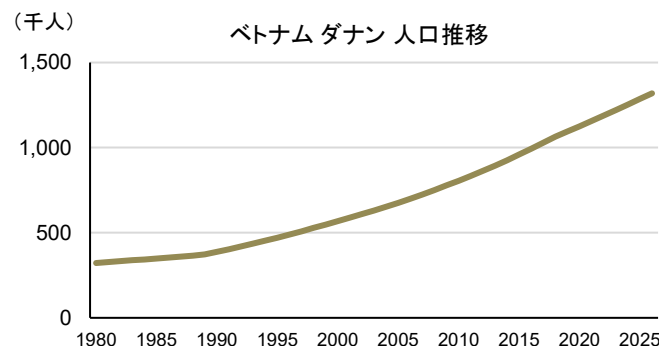
人口が減少している日本に対し、アメリカは人口が増加し続けており、住宅の需要が続く可能性が高いと考えられる



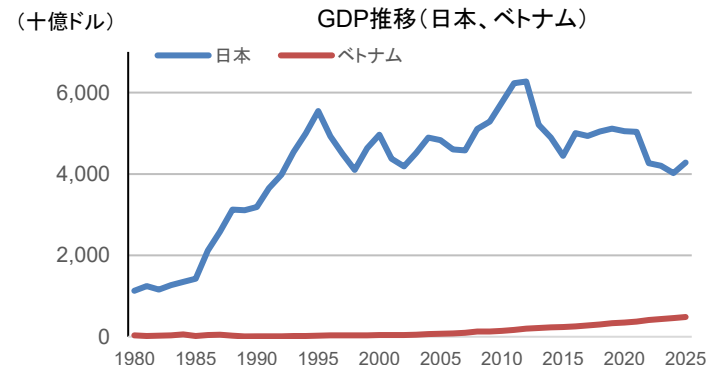
成長率が横ばいの日本に対し、アメリカは成長率が非常に高く、多くの雇用があり、不動産需要が今後も高いと考えられる



ダナンは、ベトナム第三の都市。2017年に人口100万人を突破し、その後も増え続けており、今後も高い住宅需要が見込まれる



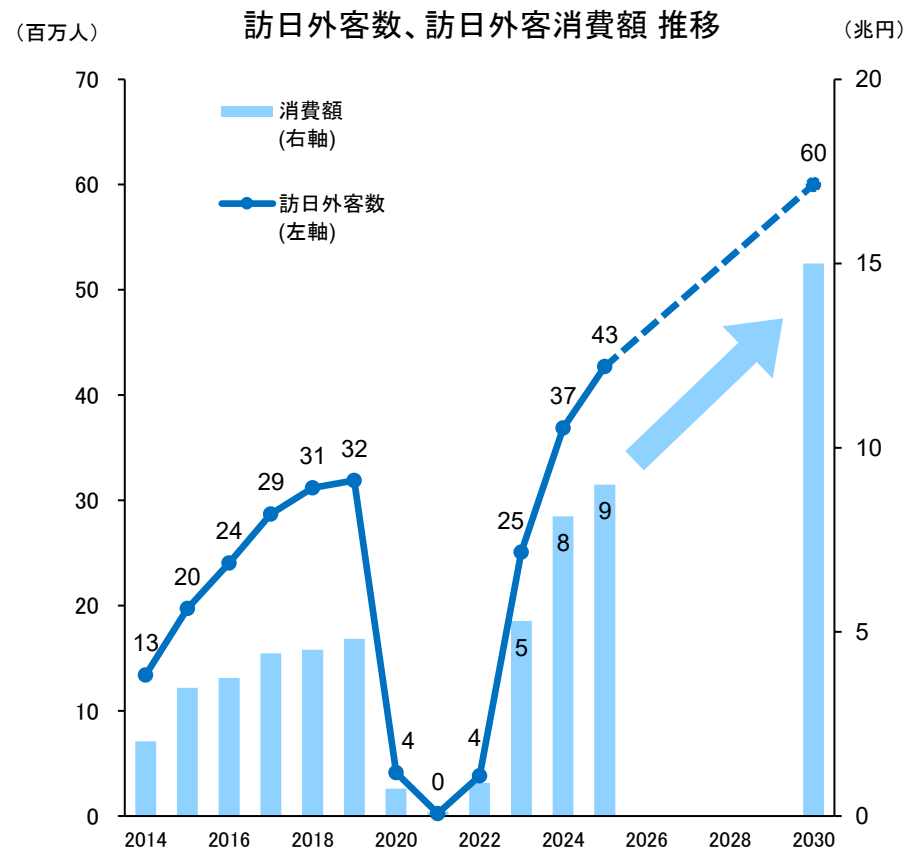
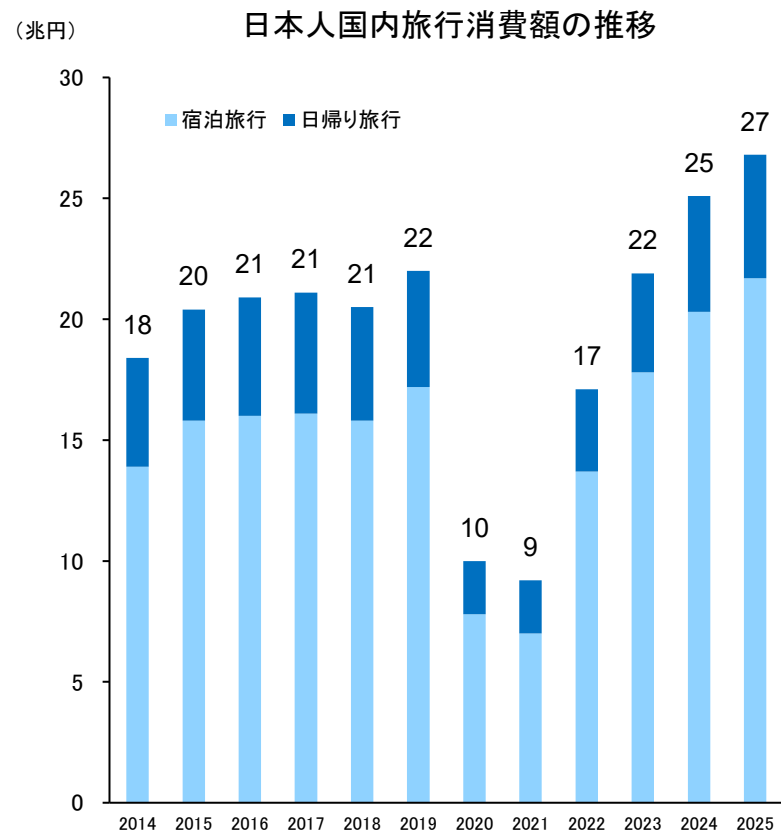
ベトナムのGDPは、日本に対して低位ながら、成長率は日本よりも高く、将来性が高いと考えられる



出典: IMF世界経済見通しデータベースより当社作成

ホテル市場の需要回復と今後の成長性

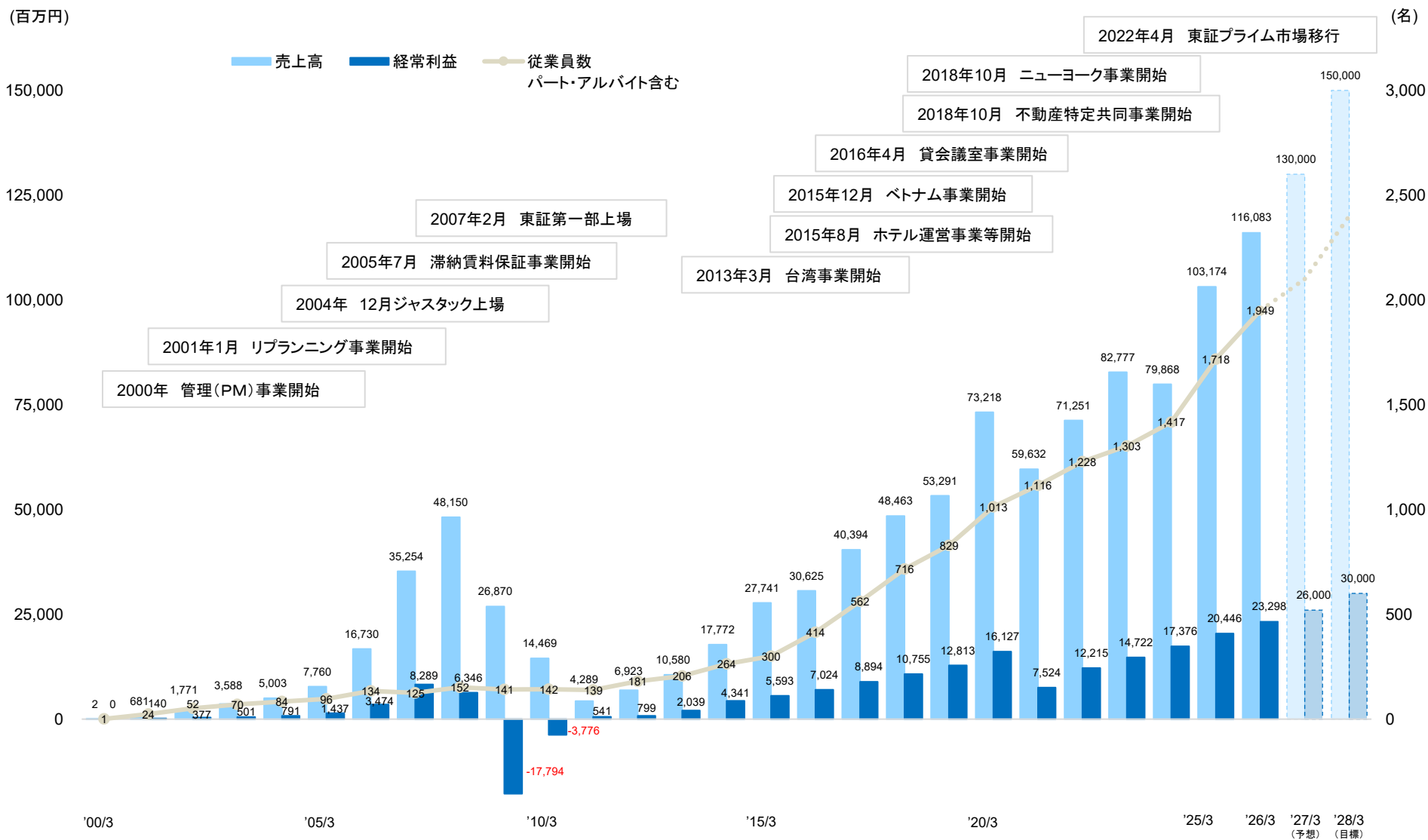
旅行需要の回復が著しく、訪日外客数・消費額ともに、今後更に拡大が期待される



出典:観光庁 旅行・観光消費動向調査「日本人国内旅行消費額」を基に当社作成

出典:JNTO 訪日外客数統計、訪日外客数および消費額の政府目標を基に当社作成

サンフロンティア不動産グループの変遷



会社概要

会社名	サンフロンティア不動産株式会社
本店所在地	東京都千代田区有楽町一丁目2番2号
設立年月日	1999年4月8日
上場年月日	2007年2月26日 東証一部(現、東証プライム)
資本金	21,118百万円(2026年5月11日現在)
代表者	代表取締役会長 堀口 智顕 代表取締役社長 齋藤 清一
連結従業員数	正社員 1,076名 (パート・アルバイト含む 1,949名)
平均年齢	36.0歳
事業内容	不動産再生 不動産サービス (不動産の管理・仲介・建築企画・滞納保証・貸会議室 賃貸ビルのオペレーション・資産コンサル) ホテル・観光 その他
決算月	3月
上場市場	東証プライム (証券コード 8934)

※2026年3月末日現在

今後ともご支援賜りますよう 宜しくお願いいたします。

- ◆ 本資料は情報提供を目的としたものであり、特定の商品の募集・勧誘・営業等を目的としたものではありません。投資を行う際は、投資家ご自身の判断と責任で投資なさるようお願いいたします。当社の株式のご購入にあたっては各証券会社にお問い合わせください。
- ◆ 本資料で提供されている情報は、金融商品取引法、宅地建物取引業法等の関係法令、及び東京証券取引所上場規則等に必ずしも則ったものではありません。
- ◆ 本資料の内容には、将来の業績に関する記述が含まれていますが、このような記述は、将来の業績を保証するものではありません。
- ◆ 本資料の内容に関しては、万全を期しておりますが、その内容の正確性及び確実性を保証するものではありません。
また、予告なしに内容が変更または廃止される場合がございますので、あらかじめご了承ください。

<本資料に関するお問い合わせ>

サンフロンティア不動産株式会社 経営企画部

Phone : 03-5521-1551

URL : <https://www.sunfrt.co.jp/>

Mail : ir-contact@sunfrt.co.jp



SUN FRONTIER